

リオン

末日聖徒イエス・キリスト教会・1999年12月号



クリスマス



表紙

表紙——「キリスト降誕」ロバート・T・バレット画。裏表紙——「ゲツセマネのキリスト」ハインリッヒ・ホフマン画。背景／「病人を癒されるイエス」ギュスターブ・ドレ画。

フレンド

「星に目を向ける羊飼いたち」ミネルバ・タイカート画。

一般

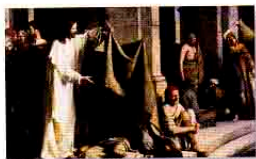
- 1 大管長会からの手紙
- 2 大管長会メッセージ——愛の形 第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 6 末日聖徒の声——愛の贈り物
- 12 キリストを中心とした生活を送る 七十人定員会 メリル・J・ベイトマン
- 22 クリスマスの象徴 ジャン・U・ピンボロー
- 26 クリスマスにキリストを思い起こす
- 30 より堅固な家族を築くための提案 D・レイ・トーマス
- 33 家庭訪問メッセージ——神殿に備える
- 42 福音の教えを改めて認識する

青少年

- 25 モルモンメッセージ——地には平和を 天からの贈り物
- 34 わたしの英雄 リンダ・A・ピーターソン
- 36 ソウェトの輝ける未来 マービン・K・ガードナー
- 40 突破口 アン・ミシェル・ニールセン
- 48 什分の一の習慣 ウィニフレッド・C・ジャーディーン

フレンド

- 2 最も素晴らしいおくり物——大管長会から
世界中の子どもたちへのクリスマスメッセージ
- 4 イエスのように——自分の持つすべてをささげる アンジェラ・ジャック
- 5 クリスマスの工作
- 6 ジョセフ・スミスの最初の示現 M・ラッセル・バラード長老
- 8 クリスマス・アドベント・カレンダー
- 10 「あたたかいのは、近づいているからよ」 ジュリー・タガート・ラバ作
- 12 分かち合いの時間——しゅの来られる時 シドニー・レイノルズ
- 14 世界のお友達



12ページ参照



「フレンド」
2ページ参照



36ページ参照

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。

月刊——イタリア語、英語、オランダ語、韓国語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語。隔月刊——インドネシア語、タイ語。季刊——アイスランド語、ウクライナ語、ギルバート語、セブアノ語、タガログ語、チェコ語、ハンガリー語、フィジー語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順)

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長：ジャック・H・ゴースリン

顧問：F・エンツィオ・ブッシュ、ジョン・M・マドセン、アレクサンダー・B・モリソン

教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン

企画編集ディレクター：ブライアン・K・クレイ
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーグ

国際機関誌スタッフ

編集主幹：マービン・K・ガードナー

編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン

編集副主幹：ロジャー・テリー

編集補佐：ジェニファー・グリーンウッド

工程管理：ベス・デーリー

出版補佐：コニー・シェークスピア

編集アシスタント：ピーター・B・ガードナー

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスマネージャー：M・M・カワサキ

アートディレクター：スコット・パン・カンペン

デザイナー主任：シェリー・クック

デザイナー：タッド・R・ピーターソン

制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ

制作：レジナルド・J・クリステンセン、カリ・A・カウチ、デニス・カービー、ジェンソン・L・マンフォード、ディーナ・L・ソレンソン

デジタルプリプレス：ジェフ・マーティン

予約購読スタッフ

ディレクター：ケイ・W・ブリッグス

配送部長：クリス・クリステンセン

マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「リアホナ」予約申し込み用紙で

お申し込みになるか、または現金書留か郵便振替

(口座名：末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口

座番号：00100-6-41512)にて教会管理本部配

送センターへご送金いただければ、直接郵送いたし

ます。●「リアホナ」のお申し込み・配送について

のお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西

小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理

本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

印刷所 理工印刷株式会社

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)

半年予約1,200円(送料共)

普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines December,

1999. Japanese. 99992 300

For Readers in the United States and Canada:

December 1999 no. 12. IIAHONA (USPS 311-480)

Japanese [ISSN 1344-8595] is published monthly by The

Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North

Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is

\$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes.

Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days'

notice required for change of address. Include address label

from a recent issue; old and new address must be included.

Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt

Lake Distribution Center at address below. Subscription help

line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa,

MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake

Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368,

Salt Lake City, UT 84126-0368.

1999年2月11日

全世界の教会員 各位

拝啓

わ

た私たちの周囲には、青少年を傷つけることを意図した破壊的な要素が満ちています。わたしたちは、自らの選りにより主の道と教会のプログラムに添った生き方をしている教会の若人を心からたたえたいと思います。青少年の間に信仰が増し加わっていることを知るにつけ、とても喜んでいます。

しかし、残念なことにサタンの仕掛けしたわなに陥り、教会に活発でなくなったり、トラブルに巻き込まれたりしている人々がいます。わたしたちはそのような人たちのことを非常に憂慮しています。

親である皆さんに、子供たちを福音の原則の中で教えることに全力を尽くしてくださるようお願いいたします。そのことによって子供たちは教会に活発であり続けるでしょう。家庭は義にかなった生活の基であり、ほかのどのような手段も、家庭に代わる役割を果たし得ませんし、神から与えられたこの責任を遂行するうえでの大切な役割を果たしてはくれません。

わたしたちは親の皆さんと子供たちに、家族の祈り、家庭の夕べ、福音の研究と指導、そして健全な家族活動を最優先するようお勧めします。必要とされるその他の事柄や活動がどれほど価値のある適切なものであったとしても、それらは、親と家族だけが全うできる天与の義務に取って代えられるものでは決してありません。

監督およびほかの教会役員の皆さんは、親を支援するためにできる限りのことをしてくださるよう切にお願いします。子供たちを主の道にかなった方法で養育するに当たり、必要なときはいつでも指導者が時間を割き助けてくれるのだと、親たちが感じられるようにしてください。どの地域でも可能なかぎり、親が子供たちとともにいられるように、日曜日の諸集会、すなわち3時間プログラムや、日曜日早朝の評議会、夕方遅くのファイヤサイド以外の集会は避けてください。わたしたちが家族を強めることによって、教会全体が強められることになるでしょう。

敬具

大管長会

ゴードン・B・ヒンクレー

トーマス・S・モンソン

ジェームズ・E・ファウスト





愛の形

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

このクリスマスの時期に当たり、時間をかけて、世の救い主の誕生と生涯、そしてその死の意味についてじっくりと考えてみようではありませんか。その出典が神聖な書物であれ、あるいは世俗の書物であれ、あらゆる宣言文の中で、夜、羊の群れの番をする羊飼いたちに天の御使いが告げた知らせほど、重要な意味を持つものはありません。

「御使は言った、『恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。』」

きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。』（ルカ 2:10-11）

それから2,000年が経過した今、多くの国々では——しかも、いわゆるキリスト教国家と言われる国々でも——なお国内外に戦争があるだけでなく、飢えも無関心も存在します。わたしの父が従事した第一次世界大戦の西部戦線では、クリスマスイブの静寂の中を、幾多の塹壕^{せんごう}を越えて、アメリカ軍兵士の耳に、「シェティレ・ナッハト・ハイリゲ・ナッハト」（「聖し、この夜」『賛美歌』118番）と歌う敵軍の静かな歌声がかすかに届いてきました。そして、今度はそのお返しに、アメリカ軍の兵士たちが「地には平和を 人に親しみ」（「昔、ユダヤの野辺に」『賛美歌』126番）



「御使は言った、『恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。』
きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。
このかたこそ主なるキリストである。』」

と歌う声を敵軍の兵士たちは耳にしたのです。

それから20年後、わたしも従事した戦争は、同じ地域を舞台にし、同じ敵同士で戦われました。わたし自身は、ヨーロッパの西部戦線に従軍したわけではありませんが、クリスマスイブには、イギリス軍とアメリカ軍の兵士たちは、ドイツ兵たちが「シュティレ・ナット・ハイリゲ・ナット」と歌う声を耳にし、ドイツ兵たちはアメリカ兵が「地には平和を 人に親しみ」と歌う声を耳にしたのでした。幸いなことに、昔の敵は今では友人となっています。

キリスト教の理想というものは、それが実践されたこともなければ、必要ともされてこなかった、という言葉をししばし耳にします。キリストの教えは、それほど実践が難しいと考えられてきたので、正面から試みられたこともありませんでした。

世の救い主のメッセージの中心にあるのは、唯一の、栄光に満ちた、すばらしい、しかし、まだまだ十分に実践されてはいない教えです。簡潔な言い方をすれば、そのメッセージは、わたしたちが皆生まれながらに持ってきたと思われる利己心を克服できるよう努めるべきであり、生まれながらの人としての弱さを克服し、自分自身の前にまずほかの人のことを考えなければならないという教えです。神のことを考え、神に仕え、そしてほかの人のことを考え、

ほかの人に仕えなければならないということなのです。

家庭の中で、特に子どもたちに対して、こうした原則を実践することは決して難しいことではありません。親であるということは、善いクリスチャンになるための良い訓練の機会です。時には、子どもたちはそういう目で、つまりクリスチャンのお手本として親のことを見えています。何年も前のことですが、わたしはジャック・スミスの著作から、二人の少年の感動的なクリスマスの物語を読みました。

「9歳のティミーとその7歳の弟ビリーは、店を一軒一軒訪ねる度に茶色い包み紙をやり取りしていましたが、わたしはそのことについて何も尋ねませんでした。

毎年クリスマスの季節になると、わたしたち奉仕クラブのメンバーは、わたしたちの町の貧しい家族の中から子どもたちを一人ずつ連れ出して、買い物に出かけることにしています。わたしは、ティミーとビリーの担当となりました。二人の父親は失業中でした。二人に分配することになっていた4ドルずつを渡した後で、わたしたちは買い物を始めました。いろいろな店に入る度に、わたしは、あれはどうか、これはどうかと言うのですが、二人はその度に首をし

「パパが仕事に行けるように、ぼくたち、パパに靴を買ってあげたいんです」と説明したのは9歳のティミーでした。



っかり横に振って、『それじゃない』という答えが返ってきます。とうとうわたしは、『じゃあ、どの店へ入ったらいいのかね』と尋ねてしまいました。

『靴屋さんへ行ってもいいですか?』とティミーが答えました。『パパが仕事に行けるように、ぼくたち、パパに靴を買ってあげたいんです。』

靴屋に入ると、店員が二人にどんな靴が欲しいのかと尋ねてきました。茶色い包み紙が取り出されました。『この足に合う作業靴が欲しいんです』と二人が答えました。ビリーの説明によれば、その包み紙は父親の足型だと言うのです。二人は、父親がいすに座って眠っている間に、その型を取ったのです。

店員はその型紙にメジャーを当ててサイズを測ると、店の奥へ消えて行きました。しばらくすると、箱を一つ開けて戻って来ました。『これはどうだい?』と尋ねました。ティミーとビリーは目を輝かせながら、その靴を手にとってみました。『幾らですか』とビリーが尋ねました。そのとき、箱にはある値札がティミーの目に留まりました。『16ドル95セント。』ティミーは、がっかりして言いました。『ぼくたち、8ドルしかないんです。』

ところが、わたしが店員に目を向けると、彼はせき払いをして、こう言ったのです。『それはいつもの値段だよ。でも、今日だけの特別セールで、その靴は3ドル98セントだよ。』こうして、手に入れた靴をうれしそうに持った二人は、母親と幼い二人の妹のためにもプレゼントを買うことができたのです。二人は一度として、自分たちのために何かを買うということは考えませんでした。

クリスマスの翌日、その二人の少年の父親とわたしは通りで出会いました。父親は立ち止まりました。新しい靴を履いています。目には感謝の気持ちがあふれています。そして、こう言ったのです。『関心を持ってくれる人がいることを、わたしは主に感謝しています。』わたしはこう答えました。『わたしは、あなたの二人の息子さんに出会えたことを、主に感謝しています。二人は、クリスマスの意味について、わたしがこれまでの生涯で学んだ以上のことを、たった一晩でわたしに教えてくれたのですから。』¹

最後に、わたしの心の中にある希望について、どうしても申し上げておきたいことがあります。その希望とは、復活されたキリストの教えは、家族を超え、友人や隣人の垣根を超え、地域社会を超え、国家を超えて、広くゆきわたらせることができるはずだという希望です。

長年にわたって、わたしは、信仰を共にする人ではないもののすばらしいクリスチャンの紳士と一緒に弁護士事務所を経営してきました。彼はつましい家庭に生まれました。彼の家族はアメリカに移り住んで日の浅い人たちでした。勤勉と信仰とにより、苦勞して学校を卒業した彼は、やが

て地位にも富にも恵まれるようになりました。しかし彼は、貧しい人々に対する関心と同情の思いを失うことはありませんでした。その人々がどんな信仰の持ち主であろうとでもです。感謝祭とクリスマスには、彼は家族を連れて、自動車に七面鳥の肉とあらゆる野菜を積み込み、町の貧しい人々の住む地域に出かけて、貧しい人々のために自ら食べ物を配って歩くのを習慣としていました。

彼は、恵まれない人々のいる地域に住む監督たちとコンタクトを取りたいと考えて、よくわたしの助けを求めに来ました。この教会の会員の中で、困窮している人々を捜し出したいとの申し出だったのです。彼は何の見返りも期待することなく毎年このように行っていました。彼は教義と聖約の中に書かれている次のような主の訓戒を文字どおり実践していたのです。「貧しい者と乏しい者、病気の者と苦しんでいる者を、すべてのことにおいて思い起こさない。」それは、その節に続けて書かれているように、「これらのことを行わない者は、わたしの弟子ではないから」なのです(52:40)。

わたしは心の底からの証を皆さんに残します。イエスは生きておられます。また、イエスはわたしたちを愛しておられ、イエスはわたしたちの救いの主であられることを証します。この証は聖なる御霊の確認を通じてもたらされました。しかも、豊かに、完全な形で、そして何の制限も、疑いもなくもたらされたものなのです。□

注

1 "Pattern of Love," in *Especialty for Mormons*, 5 volumes (1971-87), 3:42

ホームティーチャーへの提案

1. 天の御使いたちが平和の福音の知らせ、すなわち「大きな喜び」をもたらしたにもかかわらず、世の人々は依然として互いに戦争を続けている。
2. キリストの偉大な教えは、実践が難しいと考えられ、その結果、基本的にはまだ実践されないままである。
3. もしわたしたち一人一人が、自分のことを考える前にほかの人のことを考えるように、という救い主のすばらしい勧告を実践に移すならば、平和と喜びがもたらされる。
4. 家族生活は、主の教えを実践するためには、特にすばらしい訓練の場となる。
5. こうした教えはまた、家族を超え、友人や隣人の垣根を超え、地域社会を超え、国家を超えて、広くゆきわたらせることが可能である。

愛の贈り物^{おく}

「クリスマスはツリーやクリスマスライト以上のものです。おもちゃや贈り物や数々の飾り以上のものです」とヒンクレー大管長は語りました。「クリスマスは愛です。全人類への神の御子の愛です。この愛は、わたしたちの理解力を超えてあまねく広がります。力強く美しい愛です。★ クリスマスは平安です。受け入れるすべての人に慰めと助けと祝福を与えてくれる平安です。★ クリスマスは信仰です。神とその永

遠の御子への信仰です。神の驚くべき業とメッ^{あがな}セージへの信仰です。わたしたちの贖い主である主を信じる信仰です。」（「感謝の季節」『聖徒の道』1997年12月号、6）★ この季節になると世界中のクリスチャンが、贖いという救い主の愛の贈り物、受け入れる心のあるすべての人々のために備えられた贈り物を思い出します。以下に紹介するのは、クリスマスの時期に主の愛を経験し、分かち合った末日聖徒の経験談です。



クリスマスの奇跡

ジャクリーン・マチア・マルティネス

わたしの結婚生活は危機に直面していました。クリスマスの週になり、チリのロス・アンデスにある我が家には、わたしと子どもたちしかいませんでした。そしてそれまでに一度も経験したことのないような大変な1週間を経験しました。お金が一銭もなく、食べる物も底をついていました。

今年はどんなクリスマスを3人の幼い子どもたちに経験させてあげられるかしらと自問しました。クリスマスにはいつも特別な食事と贈り物をしていました。

ひげの生えたおじいさんの訪問者サンタクロースが今年は来ないなどと、どう説明したらよいのでしょうか。

最悪だったのは、食べる物が少しもないということでした。クリスマスイブの日、娘のミッシェルが台所に行くと、そこには何もありませんでした。わたしが居間でクリスマスのことを考えていると、その娘がやって来てこう尋ねました。「どうしてわたしたちの家にはご近所のようなツリーがないの。どうして食べる物が何もないの。」わたしはどう答えてよいか分かりませんでした。心は不安でいっぱいでしたが、天の御父がわたしたちを見捨てられることはないとい

う強い信仰はありました。

突然、わたしは自分の体の中に力がみなぎってくるのを感じました。子どもたちを集め、食事もツリーも必要ないと言いました。主イエス・キリストの誕生を祝い、クリスマスの真の精神を理解しましょう、と言いました。

その日一日、わたしたちは家を掃除し、きれいにしました。夕方、わたしたちの持っているいちばん上等の服を着て、テーブルの前に座り、聖文を読みました。子どもたちはどうしてこんなことをしているのかと尋ねました。わたしは、「イエス様が家族に望んでおられるのはこういうクリスマスの過ごし方な





わたしは自転車に乗って去って行くその女性の姿を見守っているときに感じた気持ちを決して忘れないでしょう。手には刺すような冷たさを感じましたが、心の中では神の愛のめぐもりを感じていました。

のよ、皆がイエス様に近づくようにね」と答えました。そして「これまでわたしたち家族はいつも食事のことや贈り物のことばかりに関心があって、クリスマスのほんとうの意味を忘れていたのよ」と説明しました。子どもたちはわたしの答えに納得してくれました。

わたしたちが聖文を読み終わろうとしていたとき、だれかがドアをノックする音が聞こえました。ほんとうに驚いたことに、近所の人たちが美しいツリーと贈り物を持って入って来たのです。そして数分後、同じ近所の人たちが、今度はありとあらゆる種類の食べ物を持って

来て、もう一度ドアをノックしたのです。そしてその晩ずっと我が家のドアをノックする音は絶えませんでした。

子どもたちはもう大きくなってしまいましたが、あのクリスマスの日にわたしたちの心に起こった奇跡は決して忘れません。

冷たい手、温かい心

パトリシア・シュマール

ヨーロッパの冬は、自転車に乗っていると、とりわけ寒く感じます。まだクリスマスが終わったばかりのある

日のことです。わたしはベルギーのブリュッセル伝道部で宣教師として働いていましたが、自転車に乗ったわたしと同僚は、同じように自転車に乗ったある女性の横を通り過ぎました。

すぐにわたしは彼女が手袋をはめていないことに気づきました。とっさの思いつきでしたが、クリスマスに新しい手袋をプレゼントしてもらったので、この手袋は要らないかとその女性に尋ねました。彼女はどうかと迷っていました。そしてほかのことについていろいろと話し出しました。

その話が終わると、わたしは手袋を

脱ぎ、彼女の手にはめ、「メリークリスマス」と告げました。彼女は目に涙をいっぱい浮かべ、わたしを抱いてくれました。その瞬間、わたしは天の御父が彼女に対して抱いておられる大きな愛をかいま見た思いがして、神はあなたを心から愛しておられますよ、と伝えました。彼女のご主人が病気で、少し用事を果たすために家を出たところだったと話してくれました。わたしは彼女の家を訪問しても差し支えないかと尋ねましたが、ご主人が病気だということで断られました。

わたしは自転車に乗って去って行くその女性の姿を見守っているときに感じた気持ちを決して忘れないでしょう。手には刺すような冷たさを感じましたが、心の中では神の愛のぬくもりを感じていました。

奉仕を通して、わたしたちは天の御父が霊の子どもたち一人一人に抱いておられる愛を感じることができるようになります。神が人を祝福し、その祈りにこたえられるのは、わたしたちの奉仕を通してであることが多いのです。

くしゃくしゃになった手紙

クリス・ギルマン

それは1988年12月のある寒い日、カリフォルニアのサン・ルイス・オビスポに住んでいたことです。わたしは特異な病気にかかり、腹部と両足の筋肉の硬直に苦しんでいました。寒さも災いして病状は悪化し、歩くのに困難と苦痛を覚えました。

子どもたちを学校へ送り出した後で、わたしは足を引きずりながら集配所用

娘がほんとうのところ何をクリスマスに欲しいのかを知る良い機会かもしれないと思い、封筒を開けて読んでみました。「親愛なる、サンタさんへ。わたしは9歳です。わたしの望みはこれだけです。わたしのお母さんはずっと重い病氣にかかっていて、歩くことができません。だから、お母さんの病氣がクリスマスにはよくなるようにしてほしいんです。わたしの望みはこれだけです。愛を込めて、サラより。」



の郵便箱の方に歩いて行きました。手紙を何通か送ろうと思ったのです。すると郵便箱の中に、ぬれてくしゃくしゃになった封筒が入っていました。わたしは住所に目をやりました。

驚いたことに、封筒の表には「サンタさんへ、サラより」と走り書きがしてありました。9歳になる娘サラは、感受性が強く、愛に満ちており、いつも周囲の人々に思いやりを示す子でした。

娘がほんとうのところ何をクリスマスに欲しいのかを知る良い機会かもしれないと思い、封筒を開けて読んでみました。「親愛なる、サンタさんへ。わたしは9歳です。わたしの望みはこれだけです。わたしのお母さんはずっと重い病気にかかっていて、歩くことができません。だから、お母さんの病気がクリスマスにはよくなるようにしてほしいんです。わたしの望みはこれだけです。愛を込めて、サラより。」

氷のように冷たい雨が涙と混じってわたしの頬を流れ落ちました。わたしは自分の心臓が張り裂けそうになるくらいのショックを受けました。なぜなら、サラがクリスマスに望んでいることをかなえてあげられる方法がまったくなかったからです。サンタはどんな望みもかなえてくれるという娘の信仰が、クリスマスの朝には粉々に打ち砕かれることになるだろうと考えると気の毒でなりませんでした。

どうしたらよいか祈ったときに、わたしは自分の健康が回復するよう祈ったことがないことに気づきました。あきらめの気持ちが心にしみ込み、絶望が信仰に取って代わっていたのです。

長い間祈った後で、わたしはクリスマスの朝サラに送るサンタからの手紙を書きました。わたしは、人生で起こるいろ

いろなことにはそれぞれ天の御父の深い御心があり、もし天の御父を信じ、祈り続け、最善を尽くすならば、物事は結局は好転するものだと言明しました。

あの1988年のクリスマス、サンタには母親の病気が治せないこと、また御心ならば天の御父にはそれがおできになることをサラは知りました。娘のサンタに対する信仰は、いつの間にか愛する天の御父に対する信仰に変わっていました。

それから数年間、サラは絶えずわたしの病気が治るよう祈り続けました。6年以上の歳月が流れ、医学技術の進歩によってわたしの足も次第に力を取り戻し、杖や車いすの助けに頼る必要がなくなりました。サラはひざまずいて祈り、天の御父に対する深い感謝の念を表しました。

ずっと以前には、サラのサンタへの手紙を開封し、楽しいクリスマスに対する彼女の思いをかなえてあげようと思いました。しかし、彼女の思いやりのある願いのおかげで、わたしは愛にあふれる天の御父に対する子どものような信仰を学びました。そして、この教訓はわたしにとって最も価値ある贈り物となったのです。

グスタフオのほほえみ

サルバドール・ナニヤ

1993年のクリスマスの日、ベネズエラ・カラカスステーキの独身成人は、40人の子どもたちを収容する孤児院を訪問しました。わたしたちは神の大切な子どもたちに少しでも幸せになってほしいと願いました。わたしはグスタフオという4歳の少年の言葉を決して忘れないでしょう。

孤児院に到着すると、子どもたちはわたしたちに抱きついたりキスしたりと、いろいろな方法で愛を伝え、熱烈に歓迎してくれました。わたしたちも子どもたちに喜んで同様の愛情表現をしました。希望に満ち、汚れを知らない子どもたちの目を見ていると、「幼な子のように」りなさいという主の勧告をよりよく理解することができました(マタイ18:3)。

わたしたちの活動は、小さなパーティーで始まりました。そのパーティーでは自分たちが持って来たお菓子やおもちゃをプレゼントしました。昼食の時間が来て、わたしたちはそれぞれ一人ずつ子どもの隣に座り、食事の準備を手伝いました。多くの子どもたちは、食事も取りたくないほど、もらったおもちゃに夢中になっていました。自分たちの想像で作り出した空想的な話をしてくれる子どもたちもいました。何も話さず、ただこちらをじっと見ているだけの子どもたちもいましたが、わたしたちがおもしろい顔をすると笑ってくれました。

わたしは職員の方たちに、このような経験はこれまで何度ぐらいあったのかと尋ねました。職員の話では、訪問はめったになく、その結果、孤独で、内気な子どもが多いということでした。養子に迎えられる子どもたちも多いが、養子縁組の手続きを長引かせるような法律上の決まりが多いとも話してくれました。孤児のがわに立った法案が通る以前は、彼らのほとんどが養子とはなれなかったのです。

子どもたちの食事も終わり、グスタフオがわたしのところにやって来て、遊び始めました。わたしは彼と話そうとしましたが、答えはいつも簡単な言葉でしか返ってきませんでした。この短い交流の時間が終わりに近づいたときに、

グスタフはわたしをしっかりと抱き締めると、大きなほほえみを浮かべ、こう言いました。「ありがとう、パパ。」わたしは胸がいっぱいになりました。

午後3時ぐらいになり、お昼寝の時間になりました。わたしたちは子どもたちを寝かせようとしたのですが、皆興奮すぎて眠れません。わたしたちが帰る準備をしているのが分かったら、子どもたちは泣き出し、なかなかだめることができません。何と言ってよいのか分からない状態で、彼らにわたしたちの愛を伝えるのが精いっぱい、そのために抱き締めたり、キスしたりしました。そうこうしているうちに、子どもたちを眠気が襲い始めました。

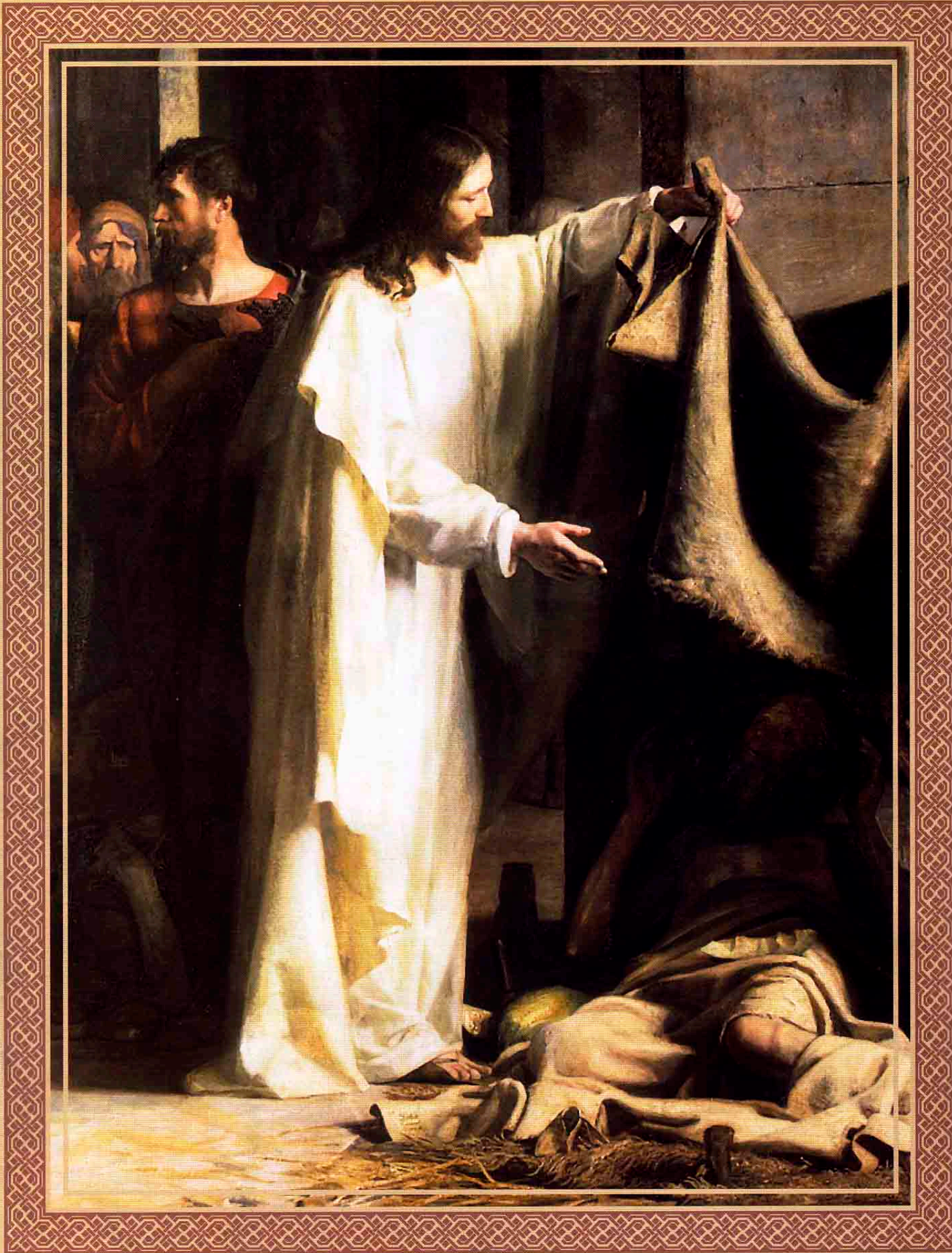
それから、帰ろうとしているときに、再びグスタフのほほえみに出会いました。まだ、起きていた彼は、こう言ったのです。「パパ、すぐ帰って来てね。」

わたしはその日一日、グスタフのことを考え、訪問以外には何もしてやれなかったことを悲しく思いました。それからしばらくして、彼が養子に迎えられたことを知りました。だれの養子になったのか分かりませんが、わたしの祈りと彼の心の中にある純粋な望みによって、そのような祝福にあずかったのだと信じています。

もう二度とグスタフに会うことはないでしょうが、あのクリスマスの日のほほえみを通して、わたしは愛を与えることとその愛を喜んで受け入れることの大切さを学んだのです。□

短い交流の時間が終わりに近づいたとき、グスタフはわたしをしっかりと抱き締めると、大きなほほえみを浮かべ、こう言いました。「ありがとう、パパ。」わたしは胸がいっぱいになりました。





キリストを 中心とした 生活を送る

七十人定員会

メリル・J・ベイトマン

アルマの息子のアルマや使徒パウロのように、わずかな期間のうちに霊的に生まれ変わった劇的な経験を持つ人はめったにいないものではありません。実のところ、聖文に記されているこれらの霊的再生は、霊的再生を成し遂げる期間を強調しているのではなく、忠実な人が生涯をかけて少しずつ成し遂げる変化が積み積もって到達する結果をいきいきと描写したものであるとわたしは信じています。

ほとんどの人にとって、キリストのような人物になるための努力は、「教えに教え、訓戒に訓戒を加えて」生涯を通じて行われます(2ニーファイ28:30)。わたしたちはそのほとんどが、もし忠実であるならば、「火と聖霊によるバプテスマ」を受けます。「レーマン人は……火と聖霊によるバプテスマを受けた。しかし、彼らはそれを知らなかった。」(3ニーファイ9:20)別の表現をすれば、霊的再生はほとんどの人にとって緩やかに進行する過程なのです。その過程の中のある一点だけを取り出してもほとんど認識できないほどの変化なのです。このため、多くの人は実際には変化の過程を歩んでいるにもかかわらず、キリストのようになっていかに自分を嘆いています。

わたしたちは自分の顔に神の面影を受けるといふ生涯の課題を目指して努力しています。わたしはここでキリストを模範とする生活を築くための3つの大切な分野について検討してみたいと思います。それは、主イエス・キリストを信じる信仰をはぐくむこと、自分を忘れて人々のために奉仕すること、試練や苦難を謙遜に受け止めて堪え忍ぶ

ことにより自分を磨くことです。

変化の過程

使徒パウロはキリストを中心とする生活を築く過程を、「神の性質にあずかる者」となるために主の偉大でかけがえない約束を受け入れることであると説明しました(2ペテロ1:4)。救い主と聖霊の賜物、永遠の命について御父が与えられた約束に関連する聖約を受け入れ、従うことによって、信仰に徳が加えられ、知識(または証)と節制(または自己修養)、さらに忍耐、信心、兄弟愛、慈愛が増し加えられます(2ペテロ1:5-8参照)。このため、人の性質は変化するのです。ベニヤミン王はこの過程を説明して、人は「聖なる御霊の勧めに従い」、約束を受け入れることによってキリストを中心とした生活を築き上げることができると述べています。人はこれらの行いを通して生まれながらの男または女を捨て、さらに贖罪によって聖徒となるのです。わたしたちはこうして、幼子のようになり、従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、あらゆることに喜んで従うのです(モーサヤ3:19参照)。御父の約束の中で最も大いなるものは聖霊の賜物を受けることです。聖霊はわたしたちを細くて狭い道を歩むよう導き、イエス・キリストとキリストの贖罪について揺るぎない信仰を築くよう助けることを目的としておられます(ルカ24:49;使徒2:33;2ニーファイ31:18-21参照)。人は福音の聖約を交わし、その聖約を守るならば、聖なる御霊の勧めに従い、キリストを中心にして生活することでしょう。

キリストを信じる信仰をはぐくむ

ベテロが神聖な性質の第1の特質として信仰、すなわち、御父と御子と救いの計画を信じる信仰を挙げていることは興味深いところです。キリストを中心とする生活を築く過程は福音の第一の原則を基盤としていなければなりませんし、またここから始めなければなりません。預言者ジョセフ・スミスはこのテーマについて次のように述べています。

「はしごを登るときは、いちばん下から始めて、一段一段上って行かなければなりません。そしてついには、いちばん上の段にたどりつくのです。福音の原則についても同じです。あなたがたは第一のものから始めなければなりません。そして学び続けて、ついに、昇栄に関するすべての原則を学ぶのです。しかし、あなたがたがそれらを学び終えるのに、幕の彼方へ行っても長い時間を要するでしょう。この世ですべてを理解できるわけではないのです。救いと昇栄について学ぶことは、幕の彼方でも続く大いなる業なのです。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith, selected by Joseph Fielding Smith[1976], 348)

何年も昔になりますが宣教師として働いていたころ、わたしは求道者に、信仰とは人に行動を促すほどの強い信念であると教えていました。言葉を換えると、信仰を「信念に行動を加えたもの」と定義することができます。最近、わたしはこの信仰の定義に第3の要素を付け加えました。それは証です。預言者ジョセフ・スミスはヘブル人への手紙第11章1節に記されているパウロの信仰の定義を翻訳しているときに、一つの言葉を訂正しました。欽定訳はこのような述べています。「さて、信仰とは、物事の実体を望み、まだ見ていない事実を確認することである。」ジョセフ・スミスは「実体」を「確信」と変えました(ジョセフ・スミス訳ヘブル11:1参照)。「実体」とは触れることができる物、何か手に取ることができる物を表すのに対して、「確信」は聖霊によってもたらされる精神的な確信または証を指します。このように、信仰とは「信念に行動と霊的な証を加えたもの」とであると定義することができます。

信仰の定義に証を加えることは、人の心の中で信仰が強められていく様子を説明したアルマの言葉と一致します。アルマは信じるのが最初の段階であると述べています。人は「信じようとする望みを持つだけでも」(アルマ32:27)、その過程を一步踏み出すことができます。十二

使徒定員会会長代理であるボイド・K・バックー長老はアルマの考えを次のように説明しています。

「皆さんが理性だけでは完全に証明できないものを真理として信じ、心に受け入れることによって信仰を行使するのです。

最初の信仰の行使はキリストとその贖いを受け入れることでしょう。」(「個人の啓示——賜物、試し、約束」『聖徒の道』1997年6月号、11)

アルマが述べた第2の段階は、心の中に種を植え、注意して養い育てることです(アルマ32:28、37参照)。これは定義の中の「行動」の部分です。アルマは種が言葉であって、生ける預言者と聖文の言葉であると説明しています。「言葉」はさらにキリストを表しており(ヨハネ1:1参照)、キリストは「わたしたちの」永遠の救いの源^{すくい}です(ヘブル5:9)。心の中に福音の原則を植えて、養い育てるためには、聖文と生ける預言者の言葉を熱心に調べ、そしてそれらの言葉に従わなければなりません。

誠心誠意を込めて祈り、キリストを信じながらモルモン書を研究する人々に対して、聖霊は彼らの祈りにこたえて、モルモン書が真実であることを明らかにしてください(モロナイ10:3-4参照)。わたしたちはこれと同じ方法によって「すべてのことの真理を知る」のです(モロナイ10:5)。アルマの言葉によれば、真理を求める人は種がふくらみ始めるのを感じます。そして種は良い気持ちを与えることでしよう。さらに、理解力に光が注がれ、心が広がり始めるのを感じるでしよう。これが信仰の過程における「証」の段階です。聖なる御霊は、正直な心をもって探し求める人に、たとえ目に見えるような証拠という手段によらな



いとしても、その望みが真実なものであることを証してください。これについてバックー長老はこうに述べています。「はっきりした知識がなくても信じ続けて福音の原則を試すなら、御霊が皆さんに教えてくれるようになります。だんだんと知識が皆さんの信仰に取って代わります。」(『聖徒の道』1997年6月号、11)それはやがてあなた自身の証となり、知識となるのです。

キリストを中心とする生活を築くための基盤としてこの過程がどれほど大切なかをわたしはステーク会長として帰還宣教師の面接をしていたときに何度も感じてきました。あるとき、帰還した青年が自分の生活を一変させることになった経験を話してくれました。その話は忘れることのできない感動をわたしに与えてくれるものとなりました。この長老はメキシコで2年間の伝道を終えて帰って来ました。多くの宣教師がそうであるように、彼も宣教師訓練センターに入ったときには福音の基盤がまだしっかりと固まっていませんでした。けれども面接を進めていくにつれて、彼の内部に重大な変化が起きたことに気づきました。

任地に到着して数週間が過ぎた辺りから、この長老はモルモン書が真実であり、ジョセフ・スミスが預言者であると人々に言いながら、自分自身がそれを知っているわけではないことに不安を感じ始めました。自分が確信していないことをどうして他人に確信させることができるでしょうか。同僚にこの悩みを打ち明けたところ、

同僚は、自分が求道者に勧告している言葉に自ら従ってみるようチャレンジしました。すなわち、モルモン書を読んで、信じるだけでもよいからそれを望みながら誠心誠意、心を込めて祈るようという勧めです。

1か月が過ぎましたが、この宣教師の気持ちに何の変化も起こりませんでした。彼はメッセージが真実であることを

を知るために、毎日モルモン書を読んで、祈りましたが、何も起こりませんでした。それから2週間か3週間が過ぎました。彼は忠実に聖文を研究し、祈りをささげ、求道者を見つけ、教えていました。けれどもまだ、確信が持てませんでした。

ある日この宣教師は同僚とともにちらしを配っていて、ある家族と出会いました。そして翌日の晩にレッスンを約束をしました。その晩アパートに帰ると、この長老はジョセフ・スミスの物語を家族に教えるよう同僚から頼まれました。彼はそれを引き受けると、再びモルモン書を読み始めました。彼はモルモン書を読んで、祈り、そしてまた読みました。家族に教えるまでにどうしても答えを受けるつもりでし

た。彼はほとんど一晩中、読んで祈るその過程を続けました。夜が明けたとき、彼は落胆していました。種がふくらんでくる気配を感じられませんでした。特別な啓発も



物語の中で、御父が御子を紹介して、
「これはわたしの愛する子である。

彼に聞きなさい」

と言われた箇所まで説明したとき
(ジョセフ・スミス—歴史1:17)、

長老の心に温かい気持ちが
広がってきました。

それは心の奥底の隠れた部分から
わき上がってきたものでした。



感覚も受けなかったのです。

彼は日中、同僚とともに忠実に務めを果たしていましたが、夜の約束のことが頭から離れませんでした。こうして約束の時間が来ました。二人はドアをノックしました。玄関に出たご主人が二人を小さな家に招き入れてくれました。汚れた床には9人の子どもたちが座っており、両親は子どもたちの後ろに座りました。間もなく、苦悩する長老がレッスンを教える時がやって来ました。彼は、少年ジョセフがどの教会に入るべきかについて混乱していたこと、そして1820年の麗しい春のある日に、父親の農場近くの森に一人で入って行き、祈りをささげたことを順序立てて話しました。

物語の中で、御父が御子を紹介して、「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい」と言われた箇所まで説明したとき(ジョセフ・スミス—歴史1:17)、長老の心に温かい気持ち広がってきました。それは心の奥底の隠れた部分からわき上がってきたものでした。間もなくその気持ちは彼の全身を包み込みました。そして彼は泣き始めました。戸惑いを感じた彼はじっと頭を下げていました。なぜ泣いているのでしょうか。この気持ちは一体何でしょうか。以前に感じたことのない気持ちでした。それは甘美であると同時に、彼の全身を貫くのでした。様々な思いが心の中を駆け巡りました。そして、彼は御父と御子

が少年ジョセフに御姿を現されたこと、モルモン書が真実であること、福音が確かに回復されたことを知っている自分に気づきました。ようやく感情を抑えることができた長老は、父親と母親を見上げました。すると二人とも涙を流していました。彼らも長老が感じていたと同じように御霊の強い力



を感じていたのです。長老は子どもたちを見ました。すると子どもたちも目に涙を浮かべていました。御霊は長老の言葉が真実であることを彼らに証したのです。長老は物語を続けました。そして、御父と御子が少年ジョセフに御姿を現されたことを謙遜に証して話を終えました。

この長老はその出来事の一部始終を話し終えると、こう言いました。「ステーキ会長、それからというものは何の問題もなく人々に教えることができました。わたしは福音が真実であることを知りました。なぜならば、わたしは御父と御子がジョセフ・スミスに御姿を現されたことを知ったからです。そして、自分がなぜ伝道に召されたのか、その理由が分かりました。」

わたしが話を聞いている間、聖なる御霊はこの若い長老がとてつもなくすばらしい宣教師になったことを証してくれました。わたしは、天の御父は何と効果的に物事を行われる御方だろうかと思いました。父親と母親、9人の子どもたち、そしてその若い宣教師がその晩に改宗したのでした。前の日の晩であれば一人だったかもしれませんが、翌日の晩になったために12人が改宗したのです。さらに、証人として越えなければならない試しも無事に乗り越えました。この宣教師は同僚と伝道部長に忠実でした。彼は信じたいという思いを実現するために懸命に努力して、その信念のために行動しました。そして今や聖霊の証によって確かな希望を手にしたのです。

この宣教師は完全な知識を持っていたでしょうか。アルマは、森におけるジョセフの経験と、モルモン書が真実であること、福音の回復に関しては、そのとおりであると答えることでしょう。信じたいという思いが確信に置き換えられました。しかしこの若い宣教師がまだ見いだしていない真理はたくさんあります。アルマはこのように述べています。「あなたがたの知識はそのことに関しては完全であるが、……この光を経験した後、あなたがたの知識は完全であろうか。見よ、そうでないとあなたがたに言おう。あなたがたは自分の信仰を捨ててはならない。あなたがた

は、種が良いものかどうかを知ろうとして、ただ信仰を働かせてその種を植えてみただけだからである。」(アルマ32:34-36)木が成熟して、多くの実りをもたらすようになるには、まだまだ多くの栄養を与え、若木の世話をすることが必要です。モルモン書で預言者ヤコブが述べたように、揺るぎない信仰は数々の証を通してもたらされるのです(モルモン書ヤコブ4:6参照)。



みたま
御霊の導きに従って、
一人の訪問教師は
赤ちゃんの世話をし、
もう一人の訪問教師は
家を掃除する手配を
してくれました。

奉仕は御霊の賜物をもたらす

救い主は地上で教えと導きを施しておられたときに、弟子たちに向かってこのように言われました。「また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。」(ヨハネ8:32)人は、個人の証を通して、神について、その人自身についてまたその人の果たすべき目的について理解します。けれども、聖なる御霊による導きを受けていない人は自分自身や人生の意味について明確な回答を得ることができません。光を受けていない人は精神面ばかりに心を向け、また自分自

身のことにについてあれこれ心配します。けれども、霊的な証を受け、救い主の愛を味わった人は、内省することや自分自身のことに心を奪われる状態から脱却することができます。そのような人々は聖なる御霊に従うことによって、生まれながらの人を捨て去って、外部に目を向け、人々に奉仕することに関心を寄せるのです。

バプテスマを受け、すべての戒めを守ろうと努力する人は「互いに重荷を負い合うことを望み、また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望むようになります(モーサヤ18:8-9)。わたしたちが戒めを守り、そのような奉仕を行っていると、主は「[わたしたちに]ますます豊かに御霊を注ぐことがおできになるのです(モーサヤ18:10。教義と聖約20:77も参照)。

従順と奉仕に対して与えられる報いには、聖霊の賜物だけでなく、御霊の特別な賜物があります。パウロは御霊のもたらす実が、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、信仰、柔和、自制であると述べています(ガラテヤ5:22-

23参照)。わたしたちが互いに仕えるときに、聖なる御霊はキリストの持っておられる属性を祝福として与えてくれます。

わたしたちは人々に奉仕することによってキリストの愛をはぐくみ、喜びを経験します。奉仕は慈愛、善意、信仰とともに寛容と忍耐を教えてくれます。ユタ州センタービルに住むブルース・エリクソン、ジョイス・エリクソン夫妻はこれがどのようにして実現されるかを説明しています。エリクソン夫妻は6人の子どもたちに恵まれました。3人は健康で丈夫な体でしたが、残る3人は四六時中けいれん性まひを引き起こすグルタル酸欠症と呼ばれるきわめて珍しい遺伝性の病気に冒されていました(See Bruce and Joyce Erickson, *When Life Don't Seem Fair* [1955], 280-81)。

最初と2番目に生まれたミシェルとララは健康な体を祝福されていました。3番目に生まれたシンディーは7か月目まで正常に発育していましたが、突然発病しました。医師たちは18年もの間、原因を突き止めることができませんでした。シンディーを襲った病気を理解し、看病するために努力を続ける家族にとって、それは恐怖の連続でした。エリクソン姉妹はシンディーに食事を与えるために1日に7時間もかけることがしばしばありました。シンディーは日中でも夜中でも時を選ばずに泣き続けました。24時間で45分しか眠らないこともしばしばありました。1995年にシンディーは亡くなりましたが、彼女はこの病気にかかった人で最も長く生存した人の一人でした。シンディーは生涯、歩くことも話すこともできませんでした。筋肉がねじれ、収縮するためにいつも

激しい痛みに襲われていました。彼女がヤングアダルトの年齢に達したときの体重は25キロそこそこしかありませんでした。

シンディーに少し手がかからなくなったときに、エリクソン家には4番目の子どものハイディが生まれ、その後に5番目の子どものヘザーが生まれました。ヘザーは普通に成長していましたが、生後6か月か7か月目にわずかではありましたが、病気の兆候が出てきました。エリクソン姉妹はヘザーを医師のもとへ連れて行く決心をしました。けれども診察した医師は何の問題も見つけることができ

ませんでした。その診断をどうしても信じられなかったエリクソン姉妹はヘザーを理学療法の専門家に見てもらうことにしました。

約束の日の数日前に、訪問教師が訪ねて来ました。訪問教師が家族の様子を尋ねると、エリクソン姉妹はヘザーの発育状態を心配していること、金曜日に理学療法の専門家に見てもらうようとしていることを告げました。

「わたしはまったく気がつきませんでした」とエリクソン姉妹は記しています。「けれどもそのとき、『静かな細い声』がそのすばらしい姉妹たちに、金曜日にわたしが助



けを必要としていることをささやきかけてくださいました。その御霊の導きに従って、一人の訪問教師はハイディの世話をすること、もう一人の訪問教師は後に夫のブルースにひそかに電話して、我が家の鍵を預かる手配をしました。わたしがいない間に台所を片付けてくれるためでした。

ついに金曜日になりました。ヘザーを乗せて治療院まで車を運転している間にわたしは胃の具合がおかしくなり、悲しみが胸に込み上げてきました。わたしは心の中で祈りました。すでに予想していた結果を受け入れる勇気を懸命に得ようとしていたのです。』(When Life Don't Seem Fair, 17-18)

理学療法の専門家はジョイスの恐れを確認しました。彼女は絶望を感じました。1時間後に職場の夫を訪れ、一緒に心からの祈りをささげてから、エリクソン姉妹は家路に就きました。玄関のドアを開けた瞬間、焼きたてのパンの香りが漂っているのに気づきました。皿洗いが終わっており、台所のカウンターは染み一つありませんでした。

床はモップでふいて、そのうえワックスまでかけられていました。食卓には真新しいテーブルクロスがかけられており、調理台と冷蔵庫もぴかぴかに磨かれていました。台所は清潔そのものでした。居間に入ると、床は掃除機がかけられており、家具はほこり一つなく、テレビの上には、はさみを入れて間もない花が新しい花瓶に生けられていました。心の重荷が軽くなるのを感じながら、彼女は2階へ向かいました。すると、ベッドもきちんと整えられていました。寝室も洗面所も掃除されていました。それに洗濯まで終わっていました。

ジョイスが祈りをささげるために自分の寝室に入ったときには、家に着くまで悲しみに満ちていた心が感謝と愛で満たされていました。福音に対する感謝と、御霊の導きに従い、ほかの5人の姉妹たちに手伝いを頼んだ訪問教師の示した計り知れない愛に対する感謝でした。

「姉妹たちが家を掃除してくださったことによってヘザーの病状に変化があったわけではありませんでした」とエリ

クソン姉妹は書いています。「姉妹たちの奉仕は目の前の出来事に傷つけられ苦痛にあえぐ思いを、ほかの事柄に向かわせて、わたしにも祝福されている事柄があり、それらを感謝しなければならないことに気づかせてくれました。それは文字どおりわたしの重荷を軽くしてくれました。そして、わたしたちはお互いに助け合うことによって、『重荷が

軽くなるように、互いに重荷を負い合』えることを再認識させてくれました。わたしはその教訓を学んだことがほんとうにうれしかったのです。なぜなら、わたしはそれが福音のすべての計画の真髄であることを信じているからです。』(When Life Don't Seem Fair, 19)

7人の姉妹たちはパンを焼き、家を掃除し、洗濯をした後、どのような思いを抱いていたのでしょうか。わたしは物語のこの側面については聞いていませんが、姉妹たちの心は平安と喜びで満たされていたと思います。愛と優しさの特別な思いが姉妹たちの霊に広がったに違いないと思います。信仰が増し加えられたことを感じたに違いないのです。贖罪がもたらす最大の奇跡は、

わたしたちが打ち砕かれた心と悔いる霊をもって主に近づくならば、わたしたちの性質を変える力をイエス・キリストが持っておられることにあります。

何年か前に、わたしはエリクソン兄弟姉妹にお会いする機会がありました。御二人に謙遜と優しさの霊を感じました。わたしは御二人が互いに分かち合っている愛を目にし、御二人が子どもたちに対して抱いている愛と尊敬を感じました。彼らはそれが決して容易な道ではなかったこと、特に子どもたちが小さかったころは精神的な圧迫が極限までに達していたことを話してくれました。6番目に生まれた唯一の息子であるマークが生後7か月で病状が現れてきたとき、母親は父親と健康な子どもたちの手を借りて、1日に18時間かかりきりで3人の子どもたちの世話をすることになりました。極度の障害を持ち、自力ではまったく何もできない子どもたちでした。家族は自分たちが不幸な状態に陥れられているという気持ち、挫折感、さらに落胆を克



**選択の自由を持ち、
霊的な成長を成し遂げるには、
反対のもの、
落胆、苦痛、苦しみ、死が
必要です。**

服しなければなりませんでした。それを成し遂げたのは、奉仕、祈り、赦し、従順、そして愛でした。

あるときエリクソン兄弟姉妹は神権の祝福を通して幼いヘザーが癒されるように、数週間にわたって断食と祈りをささげるべきだという強い導きを感じました。父親の祝福は、幼い娘が健康になるという約束ではなく、ヘザーが家庭に愛と平安と喜びをもたらすという約束でした。ヘザーの体は癒されませんでした。家族は長い時間をかけてもっと大切な癒しを経験しました。それは内側からの癒しでした。わたしはブルース・エリクソンとジョイス・エリクソン夫妻が語る彼らの胸のうちに耳を傾けている間、打ち砕かれた心と悔いの霊を持つ人の深い愛、豊かな信仰と、喜び、平安、忍耐、寛容、柔和を感じました。

試練と苦難に耐える

義人を含むあらゆる人に逆境は訪れます(詩篇34:19参照)。愛する人の死、心に描いていた人とは別の人との結婚、結婚する相手が見つからないこと、離婚、障害を持って生まれた子ども、子どもが生まれないこと、失業、過ちを犯す両親、道を踏み外した息子や娘、病気など、試練と苦難には数え切れないほど様々な形があります。神は御自身の計画の中でなぜ落胆や苦痛、苦悩、死の存在を許しておられるのでしょうか。キリストを中心とする生活を築き、わたしたちの顔に神の面影を受けるために逆境が必要なのでしょうか。

救いの計画を理解し、前世と地上の生活と死後の世界を理解することによって、堪え忍ぶために必要な物の見方を身につけることができます。聖文に記されているように神は試しの場所として地球を創造されました(アブラハム3:24-26参照)。地上における死すべき生涯は試しの期間です(アルマ12:24;34:32参照)。選択の自由を持ち、霊的な成長を遂げるには、反対のもの、落胆、苦痛、苦しみ、死が必要です(2ニーファイ11章参照)。もし、人生がこの世の経験だけで終わるとしたら、逆境を理解するこ

とはできません。また、人生は不公平なものとなってしまふことでしょう。神の計画を理解していなければ、道徳的な標準が生まれながらの人の基準に基づいて決められても致し方ないのかもしれませんが。永遠の見地に立たなければ、人が人に対して行っている無慈悲な行為や、地震、洪水、あるいは障害を持つ子どもたちについて納得のいく説明を行うことはできません。

地上から落胆や試練や逆境を一掃し、自分だけに栄光を求めていたのはサタンであったことをわたしたちは忘れてはなりません。サタンは選択の自由を保護しようとはしませんでした。注目したいのは、サタンは自分が退けられると、逆境をつくり出す大もと、すなわち誘惑する者となり、罪の根源となったことです。けれども、試練と苦難の原因はたくさんあります。罪だけが原因ではありません。本人の過ち、この世の生活環境、主からの懲らしめはわたしたちにとっての清めとなるのです。試練は必ずしも本人の行いの結果ではないことを理解していると(モーサヤ



**神がわたしたちのために
一つの計画を用意してくださった
ことに感謝しています。
時には清めの過程は
つらいものかもしれません。
けれども、わたしたちは
逆境を通して神に近づくことに
感謝しなければなりません。**

23:21参照)、試しを堪え忍びやすくなるかもしれません。

神がわたしたちのために一つの計画を用意してくださったことに感謝しています。時には清めの過程はつらいものかもしれません。けれども、わたしたちは逆境を通して神に近づくこと、またわたしたちの試練と苦難を理解しておられる救い主であり贖い主を用意してくださったことに感謝しなければなりません。アルマ書には、キリストはわたしたちの「苦痛と苦難と試練を受けられ」、そして「御自分の民の……病を身に受けられる」と記されています(7:11)。さらに、主は死の縄目を断ち切るために御自身に死を受けられ、また「御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように」、わたしたちの弱さを御自分に受けられました(アルマ7:12)。

聖霊は御自分からお話になるのではなく、キリストに代わって語られることを聖文は指摘しています(ヨハネ16:13-14参照)。したがって、わたしたちが救いの計画において

聖なる御霊に従うよう求められているのは当然のことです。それはキリストに従うことだからです。キリストはわたしたちを御存じであり、御霊の励ましの根源となっておられる御方です。キリストはわたしたちがどうすればキリストのようになれるかを御存じであり、わたしたちに信仰に関する教えが必要なのか、愛あるいは忍耐、勤勉についての教えが必要なかを御存じです。またわたしたちは救い主の力によって恵みに恵みを受け、恵みに恵みを重ねられて、主にあって完全な者となることができます(モロナイ10:32-33; 教義と聖約93:12-13, 19参照)。

キリストを中心とする生活を築く唯一の方法は福音の計画に従うことであるとわたしは証します。第1段階は信仰を持ち、御父と御子が実在の御方であることについて、福音の計画について、預言者ジョセフ・スミスを通じて福音が回復されたことについて証を得ることができるように信じて生活することです。信仰が増すと、自分を忘れて、人々のために奉仕するようになります。奉仕はキリストのような生活に至るための第2段階です。それは主がわたしたちを清めてくださる過程で最も大切な部分でも

あります。奉仕がもたらす祝福は、愛、強い信仰、忍耐、そしてそのほかの神聖な特質です。最後に、へりくだって試練と苦難に耐えることにより、そしてまた信仰によってわたしたちは神に近づくことができます。わたしたちに心の準備ができていなければ、聖霊は贖罪の力によって、たとえ逆境のただなかに置かれていてもわたしたちを神聖な資質で満たしてください。

預言者アルマは、わたしたちの心に植えられた種は生長して命の木になると述べています(アルマ32:41-42参照)。ニーファイは命の木がキリストの象徴であることを天使から教わりました(1ニーファイ11:7, 20-22参照)。もしわ

たしたちがアルマの勧告に従って、心の中に種をまき、それを養い、命の木に生長するまで育てるならば、わたしたちは自分の顔に神の面影を受けて、キリストを中心とする生活を築くことができるでしょう。

□



ク リ ス マ

ジャン・U・ピンボロー

写真/マット・ライアー
「キリストと金持ちの若者」の一部。ハインリッヒ・ホフマン画

クリスマスは差異が明らかとなる時期、あるいは正反対の状況が明らかになる時でさえあります。世界中で喜びの季節である一方、その中には悲しみが存在します。住む所のない人、友人のない人、虐げられている人々の最も基本的な必要を満たすためには、御心^{みこころ}にかなう人々がもっと数多く必要です。クリスマスの楽しい光景が繰り広げられるこの季節には、わたしたちの世界に存在する悲しみ、貧困、そして暴力がよりいっそう際立ちます。

1年のこの時期、わたしたちは皆、不幸せな子どもに対して、あるいは恐らく自分自身に対して、「ねえ、悲しむのはやめて。だってクリスマスなんだから」と言おうとしてきたことでしょう。しかし、家を飾り立てても悲しみは消えないということを、子どもは知っています。そしていつの間にか、楽しそうなふりをするのを覚えていくのです。クリスマスはわたしたちの生活における暗い部分をすべてカーペットの下に隠してしまい、あたかもそれが存在しないかのように振る舞う季節ではありません。なぜならキリストとその福音は、暗い部分をただ単に隠すためではなく、それらを永遠に消し去ってしまうことを意図してい

るからです。つまり、クリスマスはわたしたちの悲しみや悩みに効く麻酔薬ではなく、ほんとうの意味の癒しである唯一の解毒剤を得たことへのお祝いなのです。

わたしたちの抱えている問題を単に隠すのではなく、それらを解決することのおできになる救い主とその生涯について考えてみましょう。問題解決のための主からの贈り物は、クリスマスを象徴する、わたしの大好きなあるものの中に表されています。

まず1つ目は木、すなわち常緑樹です。常緑樹は生長し、自然界における死の季節の間中ずっと、緑色の葉を保っています。これは、個々の死に対して再生があり、すべての失われたものは再び見いだされ、別れたものはすべて再び結ばれるという約束を象徴しています。わたしたちは、キリストが「とこしえに死を滅ぼし、主なる神はすべての顔から涙をぬぐ[われる]」という約束を受けています(イザヤ25:8)。

また命を保つために根を張らなければならない木と同様に、わたしたちは永遠の命を得るためにキリストに根ざさなければならないことを思い起こさせてくれます。

「そのあかしとは、神が永遠のいのちをわたしたちに賜わり、かつ、そのいのちが御子^{おんこ}のうちにあるというこ



ス の 象 徴

とである。

御子を持つ者はいのちを持ち、神の御子を持たない者はいのちを持っていない。

これらのことをあなたがたに書きおくれたのは、神の子の御名を信じるあなたがたに、永遠のいのちを持っていることを、悟らせるためである。』(1ヨハネ5:11-13)

2つ目は星です。星は、深い暗闇の中に永遠に消えることの無い光が存在することに気づかせてくれる象徴です。星の光はわたしたちにとって最も暗い時期に、最も強く輝きます。死と同じほど深い暗闇を消し去る光とはどのようなものでしょうか。それはわたしたちの救い主から発せられる光です。パウロはエペソ人にこのように書き送りました。「眠っている者よ、起きなさい。死人のなかから、立ち上がりなさい。そうすれば、キリストがあなたを照らすであらう。』(エペソ5:14)

3つ目は、羊飼いの杖です。すべてのさまよう魂のために、慈愛に満ちた愛と憐れみに満ちた羊飼いが見守り、わたしたちが無事であるよう導いてくださいます。羊飼いである主はわたしたちの名前を御存じで

あり、わたしたちは主の声を知っています。友人や愛する人たちが案内を申し出してくれるかもしれませんが、彼らに対して落胆したときにも、主は導きの手を差し伸べてくださいます。主は、物理的、あるいは霊的な意味でのやもめや孤児に対して特別な注意を払ってくださいます。

時としてわたしたちは羊飼いからさえ見捨てられたように感じたり、自分自身の失敗によって孤立したように感じたりすることがあります。けれども主は、わたしたちが悔い改めるかぎり主との離別は永遠に続くものではないことを思い出させてくださいます。

『わたしは少しの間あなたを捨てたが、深い憐れみをもってあなたを集めよう。

わたしはいささか怒って、少しの間あなたから顔を隠したが、永遠の慈しみをもってあなたを憐れもう』と、あなたの贖い主である主は言われる。

『山々が去り、丘が動いても、わたしの慈しみはあなたから去ることなく、わたしの平和の聖約は動くことはない』と、あなたを憐れむ主は言われる。』(3ニコライ22:7-8,10)





4つ目は、まさしく喜びの中心である、かいばおけの中の幼子イエス御自身です。善なるものは悪しきものと比較して、より確かであり、より永続的で力強いということ、また、最も弱く無力な存在である生まれたばかりの幼子が、立派な軍隊と野心とを持つヘロデ王よりも力があるという、単純にして驚くべき真実を思い起こさせてくれます。イエスがわたしたちとともにあるとき、わたしたちは世の悪を恐れる必要はないということを、イエス・キリストはわたしたちに約束してください。「幼い子供たちよ、恐れてはならない。あなたがたはわたしのものであり、わたしはすでに世に勝っており、そしてあなたがたは父がわたしに与えてくださった者に属しているからである。」(教義と聖約50:41)

5つ目は、美しく包装された贈り物です。誕生を祝うこのお祝いでは、名誉あるゲストである救い主が、わたしたちにあらゆる最高の贈り物を与えてくださいます。しかしわたしたちも、贈るべきプレゼントを持っています。そしてわたしたちが贈ることのできる最良の贈り物はいつも手作りのものです。

主に何を差し上げることができるだろう

こんなに貧しいわたしから

わたしが羊飼いだったら

主に子羊を差し上げるだろう

わたしが博士だったら

自分の役割を果たすだろう

だけどわたしは主に何を差し上げることができるだろう

わたしの心を差し上げよう

(クリスティナ・ロゼッティ)

わたしは主への信頼と主の知恵への信仰を、主に贈ります。わたしは自分の最も重い荷であるわたしのいちばんの弱点を、また、消え去ることなく続く恐れと最も深い悲しみを、主に差し上げることができます。なぜなら主はこれらを受け入れ、わたしにとって益となるものに変えてくださるからです。そしてわたしは憐れみ深い救いの心と、喜んで人々に仕える手によって、永遠に続く感謝の気持ちを主に贈ることができます。

わたしたちがこのクリスマスの季節に、——そしてクリスマスの時期でなくても——救い主がわたしたちにお与えになった贈り物をもっと十分に受け入れ、わたしたちの生活をそれらと調和させ、変化させることができますように。

□



モルモンメッセージ

地には平和を

天からの贈り物



わたしたちがキリストを生活の中心に置くとき、平安はもたらされます。
(ヨハネ 16:33 参照)

クリスマスに キリスト

を思い起こす

『**リ**アホナ』編集部からの招きに
応じて、世界各地の末日聖
徒が彼らの家庭やワード、支部で築い

てきた伝統を書き送ってくださいまし
た。つまり、互いを近づけ、クリス
マスのお祝いを、救い主に焦点を合

わせたものとするうえで助けとなった
伝統です。



「羊飼いの礼拝」／バルトロメ・エステバン・ムリヨ、ムセオアルブラド、マドリッド

クリスマスのはと

子どもたちが幼く、わたしたちがまだアルゼンチンのメンドサ、サン・ラファエルに住んでいたときに、わたしたちはクリスマスの鳩を作る伝統を持つようになりました。それまで、わたしたちはたくさんのクリスマスカードを友人や親族に送っていました。そして、それが家計の負担になってきました。そこで、高価な既製のカードを買う代わりに、クリスマスの時期に平和のメッセージを伝える鳩の形に自分自身のカードを作ることになりました。最初は簡単な鳩を白い厚紙で作っていましたが、何年か後には、いろいろな色で飾り、クリスマスメッセージとキリストの降誕についての聖句を採り入れるようになりました。子どもたちはそれを作るのを楽しんでいました。その子どもたちはもう大きくなってしまいましたが、今でもその伝統は続いています。

オンタリオ・ミシサウガステーク

ブラッククリーク(スペイン語)ワード

ジョージナ・クリスマン



1 か月間のお祝い

わたしたちは教会に加入した後、家族のためにクリスマスの伝統を作ることになりました。物質にではなく、天の御父の子どもたちに対する愛、すなわち御子イエス・キリストによって具現された御父の愛にもっと焦点を合わせる伝統です。

わたしたちの家族は、木や花で家を飾りつける伝統をやめて、毎年、救い主を思い起こすのに助けとなる家庭の夕べを何度か開くようにしています。その家庭の夕べで、わたしたちの好きなクリスマスの歌といろいろな絵を子どもたちのために1冊の本にまとめました。12月の第1月曜日に、わたしたちはクリスマスの起源とクリスマスの象徴、また全世界の人々がイエス・キリストの降誕を祝う

方法に

ついて話し

ます。わたしたちはまた、妻のバーニとわたしが結婚した1986年の『リアホナ』12月号から大好きなクリスマスメッセージを読みます。第2月曜日には、クリスマスについて大好きな本から読みます。第3月曜日には、最近の『リアホナ』から大管長会メッセージを読んで話し合います。

わたしたちにとってこの月の最も特別な日は、12月24日です。わたしたちは友人や親族を夕食とクリスマスプログラムに招待します。このプログラムで子どもたちは音楽を発表し、わたしたちはキリストの降誕の話を読みます。また、わたしは準備しておいたクリスマスメッセージを分かち合います。それから、妻が準備してく

れた素晴らしい夕食を楽しみます。

このような方法で、またほかの多くの方法で、わたしたちはクリスマスをイエス・キリストの降誕として祝うのに助けとなる家族の伝統を作り上げました。

ブラジル・マカエ地方部ビスコンデ・デ・アラウジョ第1支部、アントニオ・カルロス・ペドロサ・ドス・サントス

クリスマスの喜びのよきおとすれ

わたしたち夫婦は、二人とも10代のときから教会の会員となっていました。かつて仏教徒であったため、年若いわたしたちの家族にはクリスマスの伝統がありませんでした。1979年にタバナクル合唱団が日本で

公演を行ったとき、わたしたちは合唱団員のメアリー・K・ザックリソンと友達になりました。その年の12月以来、毎年12月になると、わたしたちは彼女の家族のクリスマスレター、「ザックリソン家族新聞」をもらいます。それには、クリスマスメッセージと、彼女の家族の近況、ザックリソン家族の生活での重要な出来事に関する情報が書かれています。

ザックリソン家族は、わたしたち自身の家族の伝統を築くようにわたしたちを励ましてくれました。翌年、わたしたちはキリストの降誕の場面を演じた子どもたちの写真を友人と家族に送ることにしました。その翌年から、わたしたちはクリスマスに関係した様々な場面を演じた子どもたちの写真を切り抜き、また全体の写真を撮ってカードを作るようになりました。



した。

その後何年にもわたって、わたしたちはみ使いたちの知らせを聞く羊飼いや救い主の降誕、博士たちの訪れなどのカードを作ってきました。これらの活動で子どもたちが見せた熱意と創造性に、わたしたちは驚かされました。わたしたちは大勢の親族と友人、職場の同僚に、毎年カードを送ります。そして、それを受け取る多くの人々は、毎年わたしたちのカードを心待ちにしていると言ってくれます。

キリストを中心とした家族の伝統を作り上げることはチャレンジではありますが、多くの喜びももたらされます。昨年、わたしたちは19年目のクリスマスカードを41年目の「ザックリソン家族新聞」と交換しました。

日本名古屋ステーキ春日井ワード、
石川賢一、愛子

クリスマスプログラム

『リアホナ』には、全世界の多くの家族、ワード、支部からクリスマスプログラムを書いたものが寄せられます。

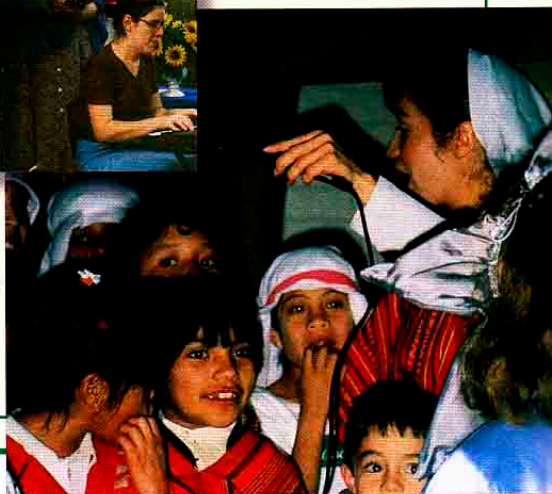
ほとんどのプログラムには、聖歌隊が歌う曲や、クリスマスキャロルとして全員で歌う曲が挙げられています。また、新約聖書に述べられているキリスト降誕の話や、第三ニーファイに記録されているアメリカへのキリストの訪れからの話の情景が再現されます。

メキシコのザボパンに住むロサス家族は、家族や、教会員でない人々を含む隣人のために、モルモン書に記されている救い主の降誕の話を劇に

しました。ブラジル・リオデジャネイロステーク、エンジェンホ・デ・デントロワードの扶助協会は、ホームメーキングの集会でクリスマスプログラムの準備を進め、姉妹たちを活発でないすべての姉妹たちのもとに送り出し、クリスマスカードを渡しました。[フランス領ポリネシア]トゥブアイ・オーストラルズ地方部のターフェイア支部の会員は、クリスマスプログラムとパーティーに教会員でない友人たちを必ず招待しました。



多くの人がクリスマスプログラムでキリストの誕生を祝う。上/ブラジル、リオデジャネイロ。右/メキシコシティのメキシコ・アラゴンステーク。





救い主への贈り物

ある12月のこと、わたしたちは家族の集いを行いました。わたしたちはその集いの始めに、11歳の息子に、彼の誕生日にわたしたちが彼以外のすべての人にプレゼントをあげたとすればどう感じるか尋ねました。彼はそうしてほしくないということでした。そこでわたしたちは続けて、わたしたちが誕生日を祝う相手を除く、そのほかの人々に贈り物をする祝日があるかどうか尋ねました。すると、子どもたちはすぐに、クリスマスのことを話しているのだと分かりました。わたしたちが誕生日を祝っているその御方イエス・キリストに贈り物をしてクリスマスをもっと有意義なものにすることを決心しました。

子どもたちは救い主に何を差し上げることができるか考えました。わたしたちは救い主がわたしたちに何を望んでおられるかを話し合いました。わたしたちは救い主の贖罪^{しよくざい}について、また、わたしたちが罪を捨てて従順になることを救い主が望んでおられることについて話し合いました。わた

したちが奉仕をし、また才能を分かち合うことによって自分自身をささげること、救い主がどれほど望んでおられるかについても話し合いました。

その年に、わたしたちは家族の一人一人に、自分たちが救い主に差し

上げようと思っている贈り物を紙に書いて、それを箱に入れてもらいました。そしてクリスマスの朝、わたしたちはほかの贈り物を開ける前に、家族の祈りをし、翌年に救い主に差し上げる贈り物をほかの人々と分かち合いました。

その後何年にもわたって、イエス・キリストに贈り物を差し上げる伝統は、わたしたちの家族がクリスマスのほんとうの意味とイエス・キリストへの愛と感謝に焦点を合わせる助けになりました。

ユタ・ブラフデールステーキ、ブラフデール第2ワード、スコット・アンダーソン、アンジェル・アンダーソン

救い主の模範に従う

わたしたちは6人の子どもがいる家族として、一つの伝統を作りました。子どもたちはこれが大好きでした。毎年クリスマスの時期に、わたしたちはクリスマスキャロルの準備をし、クッキーを焼き、布の人形を作り、活動に備えて子どもたち自身のおもちゃと服を集めます。それから、子どもの一人がサンタクロースの装いをし、ほかの子どもたちはサンタクロースの助け手になって、わたしたちはワード内のお年寄りや病人、近くの病院にいる人々、通りにいる幸せでない人々を訪れます。この活動は、わたしたちがクリスマスのほんとうの意味を感じ、またもっとイエス・キリストに似た人になる助けとなりました。

メキシコ・コロニア・ファレスステーキ、カサスグランデスワード、ファハード・ロメロ家族





より堅固な家族を

D・レイ・トーマス

時間と関心を家族に注ぎ込めば、長期間にわたって恩恵を受けることができます。知り合いのある父親は、出張に出てしまうと、2週間は家を空けなくてはなりません。しかし帰宅すると、普段以上に子どもたちと過ごし、一緒にいられなかった時間を補っていました。また、家にいる時間を最も有効に使えるようにと、3か月先のキャンプやスポーツ行事などの楽しい活動の予定を子どもたちと一緒に立てました。父親の出張中、母親はしつけに関する問題をはじめ、日常の出来事について記録を取っていました。そして父親は帰宅後、妻と一人一人の子どもについて話し合いました。この家族は難しい状況下にあっても、強いきずなを築く方法を見つけていたのです。

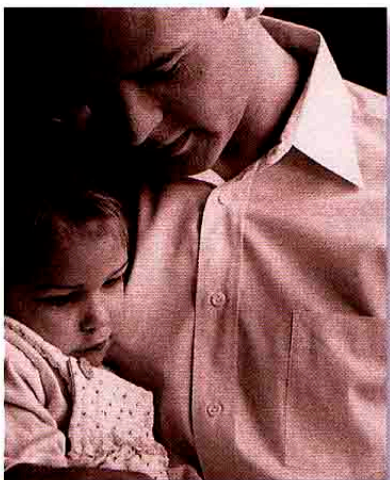
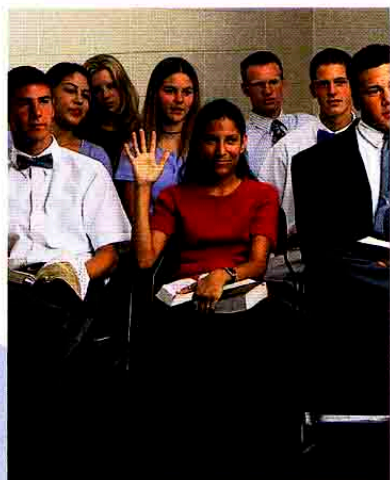
確かにどの家族もスケジュールや必要としている事柄は千差万別です。しかし、家族がともに過ごせる時間を計画することが大切です。「家族——世界への宣言」にはこう述べられています。「両親には、愛と義をもって子供たちを育て……るという神聖な義務があります。』（『聖徒の道』

1998年10月号、24)福音に添って家族関係を築くために時間を取ることは、今日の両親に課せられた最も重大な務めの一つです。わたしたちが子育てをしていたころ、次のような活動が、愛と理解の強いきずなをはぐくむのに役立ちました。

1ともに夕食を取る。わたしたち家族は、夕食の時間が一人一人にとって、職場、学校、家庭でのその日一日を振り返る良い機会になると気づきました。食事の終わりに聖文を読むようにしたこともありました。

2子どもと定期的に話をする時間を取る。改まった面接の方が両親にとって都合の良い場合もありますが、わたしはざっくばらんに話すようにしていました。用事があって出かけるとき、よく子ども一人を一緒に連れて行くようにしました。その子どもの日常の出来事について、また親が手を貸すことはないかなどについて話し合うかっこうの時間となりました。

3毎朝毎晩、家族の祈りをささげる。この特別な時間は



築くための提案

一致を築くのに役立ち、またお互いのために祈ることを家族の一人一人に教えます。また家族が伝道や神殿結婚など、価値ある目標を定める助けとなります。

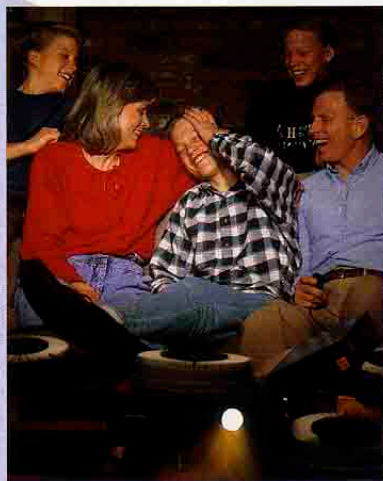
4 家族が教会の集会や活動に活発に出席するよう奨励する。しかし家族の活動と、スポーツ行事など教会の任意の活動が重なってしまう場合、家族の必要を優先させることに後ろめたい気持ちはありませんでした。

5 愛情を示す。体が触れ合う愛情表現は適切であれば、子どものしかるべき発達のために大切です。子どもたちの寝る時間になると、わたしたちは子どもたちと個別に話をする時間を取り、そして子どもたちにおやすみのキスをし、それからベッドに寝かせてあげました。

6 子どもに、一人ずつ、家族の財政管理に立ち合うよう求める。小切手の収支計算をするとき、予算を立てるとき、また支払いをするときに、子どもたちにも手伝わせましょう。青少年はそうように手伝うことで、大人になったときの準備ができます。

7 子どもと時事問題について話し合う。例えば現代の風潮、犯罪、政治、印象に残った人物について話し合ってください。そして似たような状況に自分だったらどう対処するか、子どもに尋ねましょう。時事問題を親の信念に関係づけて話し合ってください。また世間で起きている事柄を、聖文の中の勧告や預言者の勧告に結びつけることができるよう、子どもを助けてください。わたしたちがある日、家族で預言者リーハイについて読んでいたときのことです。人々が警告を無視する様を目の当たりにしたリーハイは、どんなに歯がゆい思いをしただろうかと話し合いました。そして今日の預言者が述べていることについて話し合い、預言者は勧告が軽んじられたり無視されたりすれば、どのように思うだろうかと話し合いました。

8 笑うことはいい薬です。わたしはよく好んで、次の話を子どもに聞かせました。フットボールの決勝戦で、片方のチームは残り1分30秒を切ったところで7点も差をつけられていました。致命的なミスがあり、もう得点できる見



込みはほとんどありません。そのチームのクォーターバックがチームメートとハドル(訳注——アメリカンフットボールで、作戦を打ち合わせるためにスクリーンライン後方に集合すること)しながら「みんないいかい、敵はこっちの思うつぼにはまっているぞ!」と言いました。するとチームの皆が笑い出し、緊張がほぐれた状態で試合に戻りました。プレーしながらも、そのクォーターバックは常に笑っていました。そして、試合が残り10秒というときに、このチームは得点を入れ、ついに逆転優勝することができたのです。

家族に時間を注ぎ、目標を定め、そしてともに楽しい時間を過ごせば、堅固な家族のきずなを築くことができます。家族で過ごす良い時間を計画するためには、想像力と努力を要しますが、聖霊の導きの下に行うならば、結果的には充足感と楽しみが得られるということに、わたしたち家族は気づきました。□

話し合しましょう

次の質問と提案について考え、ここで挙げられた提案を自分の家族に応用する際に役立てましょう。

1. どのような家族の活動があなたの家族を強めるでしょうか。
2. 両親一人一人が、子ども一人一人と個別に話したり、ともに時間を過ごしたりする機会を計画しましょう。子どもの心配事が分かるようにしてください。援助を申し出ましょう。そして最も大切なことですが、愛していることを伝えて、子どもが安心できるようにしましょう。
3. 子どもたちが預言者を通して語られる主の勧告と関係づけながら時事問題を理解できるようにするために、あなたはどのように助けられるでしょうか。
4. そのほかの参考資料を教会の配送センターで購入することができます。『良い親になるために』(31125 300)『家庭のタペアイデア集』(31106 300)『家族ガイドブック』(31180 300)

神殿に備える

「神の宮の儀式は人類家族のためのものです」と、ブリガム・ヤング大管長は述べています。「あなたの〔神殿の〕エンダウメントとは、主の宮においてこれらすべての儀式を受けることです。これらはあなたがこの世を去った後に、番人として立つ天使たちの前を通して御父の前に行くために必要な儀式です。」「『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』330—331)

わたしたちは初めての神殿訪問を心待ちにしていようと、100回目の訪問であろうと、その経験を神聖で聖いものとするために準備をする必要があります。

準備の方法

●あなたはまだ神殿に参入していないければ、どのようにすれば神殿の儀式を受けることができるか、あなたの監督または支部長に尋ねてください。神殿推薦状を得る条件について話し合ってください。あなたのワードまたは支部で行われる次回の神殿準備セミナーに参加できるかどうか尋ねてください。たとえ近い将来に神殿に行けそうになくても、神殿推薦状を受け、それを保管しておいてください。

●神殿推薦状を受けるにふさわしくあってください。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように述べています。「わたしたちは、教会員の皆さんが神殿に参入するにふさわしくなるよう祈っています。もし悔い改めが必要なら、今こそ進路を変え、自分自身を神殿参入に備えるべ

き時です。」「〔祝福の言葉』『リアホナ』1999年1月号, 98)

●儀式、聖約、神殿、偉大な「幸福の計画」(アルマ42:16)に関する聖句を研究し、それについて祈り、深く考えてください。『リアホナ』『福音の原則』『歴代大管長の教え』、そのほかの教会出版物に出ている神殿と神殿活動についての記事や章を研究してください。

●家庭の夕べで、自分自身のための神殿の儀式と、死者のための身代わりの神殿の儀式がもたらす祝福について話し合ってください(教義と聖約128:18参照)。

●あなた自身の家族歴史の探求に取り組み、神殿にその家族の名前を提出してください。

●神殿についての賛美歌を歌い、覚え、聴くようにしてください。

「神殿を念頭に置いて行動する民」

ハワード・W・ハンター大管長は次のように述べています。「主は聖徒が神殿を念頭に置いて行動する民となるように望んでおられます。……神殿が近くに

ないために、すぐにあるいは頻繁に参入できないとしても、すべての成人会員がふさわしい生活をし、有効な神殿推薦状の発行を受け、所持できるように願っています。」「〔教会員のたいなる象徴』『聖徒の道』1994年11月号, 6)

ハンター大管長の勧告に従う会員は時々、驚くべき方法で神殿の扉が開かれることに気づきます。そのような会員の一人が、ザイルのクテカ・カムレテです。彼は最寄りの神殿から何千キロも離れた地に住んでいましたが、ハンター大管長の言葉に心を打たれました。そこで彼は支部長に会って、推薦状を受けました。後に、仕事で北朝鮮に旅行する機会があり、予期しない意外な方法でスイスへの滞在を手配し、スイス神殿に参入することができました。

彼は後にこう記しています。「どれほどへりくだる心と感謝の気持ちに満たされたことでしょう。……その日、わたしはエンダウメントを受けました。それはこれまでの人生で最も尊い賜物となっています。」「〔ザイルから主の宮へ』『聖徒の道』1997年8月号, 9)

ハンター大管長はこう語りました。「神殿は麗しい場所であり、啓示を授かる場所であり、平安の宿る場所です。そこは……聖きを主にささげる場所です。同時に、わたしたち自身にとっても聖なる場所であればなりません。」「〔教会員のたいなる象徴』『聖徒の道』1994年1月号, 6)

わたしたちは皆、神殿のためによく備えをし、望まれているように神殿を偉大で聖なる賜物としましょう。□





わたしの 英雄

リンダ・A・ピーターソン

絵/サム・ローラー

わたしは息を切らしてグラウンドの3周目を走りながらも、せめてあと1周走って終えようと決めました。いつものように先を走っていた友人のジェニファーにはすでに半周近くも離され、その差は開く一方でした。でもわたしは、彼女の方が足が早くても別に気にはならず、むしろそのことで彼女を尊敬していました。ほかにも様々なことでわたしは彼女を尊敬していたのです。

彼女とは小学5年生以来の仲ですが、そのころの彼女は算数が苦手で、特別な助けが必要なほどでした。その彼女も今では優等生です。体育は得意な方でしたが、それでもやはり努力が必要でした。それで彼女は体を鍛えるため、わたしは運動のために一緒にグラウンドを走っていたのです。

社交的なジェニファーは明るくて親しみやすく、彼女を嫌いになるなんてまずあり得ないことです。彼女が望むもの、必要とするものは何でも与えられ、またどんなことでもできるように思えました。彼女の生活は健全で生産的な活動が絶え間なく続いていたのです。



わたしも同様に忙しく、すべてを行うだけの時間はいつでもありませんでした。実際、かなり入念なスケジュール調整が必要でした。わたしより多忙なジェニファーのスケジュールを考えると、彼女がどのようにしてすべての予定をこなしているのかと不思議に思いました。

そのとき、年下の赤毛の女の子がグラウンドのそばに立ってわたしたちを見ているのに気づきました。わたしたちの小さな学校に通っている、障害を持った生徒です。わたしは彼女の前を走り過ぎながら丁寧にあいさつをしましたが、ペースを落とし、それ以上の言葉をかけるだけの余裕はありませんでした。彼女はグラウンドを走るわたしを見詰めていました。

ジェニファーとの差は1周に開き、わたしのすぐ後ろまで迫り、今にもまた追い越されそうでした。彼女の方が先に走り終え、すぐにも次に予定しているはずの大切な活動に取りかかるのは確実でした。

前方のコーナーを見てから、ジェニファーはどの辺にい

るのだろうと後ろを振り返ると、かなりペースを落とし、あの赤毛の少女と手をつないで一緒に走っていました。学校で最も忙しい人でもだれかを助ける時間があつたのに、わたしにはなかったのです。彼らが一緒に走っているのを見詰めながら、わたしは救い主のことを考えていました。

二人の様子を見ていたのはわたしだけでした。この小さな親切については主とわたししか知りません。ジェニファーは人に認められようとしたのではなく、ただ普段どおりに振る舞ったにすぎません。この日から彼女はわたしの英雄になりました。それは、だれもが知っているような彼女の名声からではなく、わたししか知らないささやかで親切な行いによるものです。

あれからかなりの月日が過ぎ、現在ジェニファーは忙しい生活から離れてフィリピンで伝道しています。時々、彼女は今ごろだれを助けているのだろうと思い巡らすことがあります。□

この13歳の双子の兄弟はソウェトの苦難に満ちた過去を知りません。二人は、まるで南アフリカの変化を象徴しているかのようです。

ソウェトの輝ける未来

文・写真／マービン・K・ガードナー

南アフリカのソウェトといえば、1970年代から80年代にかけては国際的に恐怖と暴力、そして暴動のイメージで知られていた町でした。ヨハネスブルクの南西に位置するこの町は400万人以上の黒人が住む黒人居留区です。ソウェトは南アフリカの人種隔離政策アパルトヘイトに国際的な注目を集めるきっかけとなり、結果的にその廃止につながった劇的な社会的変動の舞台となった町なのです。

しかし、そのような暴力に満ちた困難な時代にも、ソウェトでは奇跡的な



変化が始まっていました。イエス・キリストの福音が^の宣べ伝えられて教会の支部ができ、様々な人種の宣教師や会員たちが寛容・理解・一致、そして平和の精神を築くためにともに働いていたからです。

現在ソウェトにはステーキセンターが置かれ、その多くの会員は南アフリカ・ヨハネスブルク神殿に参入した経験があります。それに町のアちこちで目立った社会的な進歩も見られます。

ビルカジ家に近づくと、よく笑い声とサッカーボールをけり合う音が聞こえてきます。正面の門を入ると、一卵性双生児の13歳の男の子たちがからかい合いながらボールをけり、熱の入ったゲームに夢中になっているのが目に入ることでしょう。

庭は芝生や花壇の手入れが行き届き、非の打ちどころがありません。駐車してある車はピカピカに磨かれています。家と庭を褒めると、ビルカジ姉妹はほほえんで、「双子の兄弟も手伝ってくれますから」と言います。

**エネルギーの塊のようなこの13歳の双子の兄弟
ボンゲンコシ(左)とコシナチ(右)は
福音を実践し、
それを友達と分かち合っている。**



名前にたがわず

エネルギーと情熱の塊のようなこの双子の兄弟はほとんどいつも一緒です。学校でも教会でも同じクラスですし、友達も関心を持つ事柄も同じなのです。コシナチが泳いだり、スポーツをしたり、象やライオン、とらの絵を描いたりしているとき、だいたいボンゲンコシもそこにいて同じことをしています。ボンゲンコシが聖文を勉強したり、聖餐を配ったり、友達に証をしたりしているときには、たいていコシナチもそばにいます。

二人は学校ではアランとブライアンという名で呼ばれていますが、それ以外はコシナチとボンゲンコシというアフリカの名前を使っています。その名前は二人が生まれたときの両親の喜びを表しています。母国語のズールー語で、コシナチは「神が我々とともにおられるように」、ボンゲンコシは「神に感謝します」という意味なのです。二人とも、その名前に込められた務めを真剣に受け止めています。

福音を分かち合う

末っ子の二人が生まれたとき、すでに両親と4人の兄弟は教会に入っていました。家族全員が南アフリカ・ヨハネスブルク神殿で結び固めを受けたのはコシナチとボンゲンコシが5歳のときでした。二人は8歳でバプテスマを受け、12歳のときに執事の職に聖任されました。

学校の友達のほとんどがまだ教会員ではないので、コシナチとボンゲンコシは教会の代表として正しく行動することと友達に福音を分かち合うことの大切さをよく知っています。

二人は、たとえ皆がしていることでも、間違ったことは絶対にしようとしません。そんな二人を人は意気地なしとからかうことがあります。からかわれたり悪口を言われたりするのは気になるのでしょうか。「自分たちが正しいことを知っていますから、別に気になりません」とボンゲンコシは言います。「そんなときは何も言わずにその場を立ち去るようにしています。」こういう場合、双子の兄弟がそばにいることはとても心強い、と二人とも感じています。

二人の勇気と模範は報われています。例えば、「友達のブソ・エンデがモルモン書に興味を持つようになったので」とボンゲンコシは言います。「それで彼にモルモン書をプレゼントして、教会に誘いました。」二人は専任宣教師を自宅に招いてブソに福音を教えてもらいました。その結果、ブソはバプテスマを受け、今ではアロン神権の教師の職に聖任されてソウェトワードに集っています。それに現在ブソの母親と家族も宣教師から福音を聞き、コシナチとボンゲンコシの家族と一緒に教会に出席しているのです。

専任宣教師になる備え

伝道の成功のすばらしさを体験した二人は、以前にも増して熱心に専任宣教師になるための備えをしようと思うようになりました。

「福音を知らない人たちや、まだ学ぶ機会に恵まれない人たちに福音を教えるために伝道に出たいと思います」とボンゲンコシは語ります。

「ほくもほかの人たちが真理を知ることができるように、この教会のメッセージを分かち合いたいです」とコシナチも言います。

専任宣教師になるまでまだ6年もあるのですが、二人はこの目標に集中しています。「ほくたちは一緒に聖文を学んだり、家庭の夕べで勉強したりしています」と言いながら、ボンゲンコシはセミナーに出席できる年になるのを楽しみにしていると話してくれました。「それに、ほくたちは毎日祈っています」とコシナチも言います。その結果、教会について質問されたときに以前より自信をもって答えたり、証を述べたりすることができるようになったと感じています。白いワイシャツにネクタイをして、専任宣教師とちらしを配ったり、教える手伝いをしたりしている二人を見かけることは珍しくありません。

二人は伝道のための資金作りと生活技術を身に付けるために家事の手伝いをしています。父親のギデオン・ドンド・ビルカジの洗車や庭仕事の手伝いをします。姉が仕事に行くときは、赤ん坊の世話を手伝います。料理(ボンゲ



両親のラベダリヤ・タンダケレとギデオン・ドンド・ビルカジは、二人が専任宣教師になる備えができるよう様々な方法で助けている。

ンコシの得意料理はチキンカレーです)や自分のワイシャツのアイロンがけも勉強中です。「皿洗いや洗濯の手伝いもしてくれます」と母親のラベダリヤ・タンダケレは言います。「床を掃いたり磨いたりして、掃除も手伝ってくれますよ。」

神権の責任を果たす

二人は初等協会の時代を楽しく過ごしました。(母親は初等協会の会長をしています。)信仰箇条をよく学び、今でもとっさに13節全部を一語一句間違えずに暗唱したり歌ったりすることができますし、それぞれの意味を説明することもできます。

今は神権者として、父親の模範に従って歩んでいます。(ビルカジ兄弟は大祭司グループリーダーを務めています。)[「ぼくは執事であることに大きな意味を感じています」とボンゲンコシは言います。「初等協会を卒業して執事定員会に入ったことで大きく成長したような気がします。初めて聖餐を配ったときはほんとうにわくわくしました。」

ソウェ Steele 会長会の副会長クンブラニ・ムブラチェ

は、ボンゲンコシとコシナチが執事に聖任された日のことを覚えています。「その日、二人は白いシャツにネクタイを締めて教会にきました。わたしは年下の男の子たちにこう言ったんです。『ほら、あの二人の立派な模範を見てごらん』と。今でも毎週日曜日に二人は同じ模範を示し続けていますよ。」

聖餐を配るだけでなく、二人とワードのほかのアロン神権者たちは集会後の『賛美歌』を片付けたり、聖餐のトレイを洗ったり、窓を閉めたりして集会所をきれいにする手伝いをします。二人はワードの若い男性や若い女性とサッカーや水泳、ハイキング、それに奉仕などの活動に参加したり、ミューチャルに出席したりするのも楽しみにしています。

二人のヒーローはニーファイとジョセフ・スミスです。また、彼らには現代に生きるヒーローもいます。「ぼくはうちのワードの監督を尊敬しています」とボンゲンコシは言います。「とても義になった人だからです。」

「いつも問題を抱えた人を助けています」とコシナチも言います。

元気いっぱいティーンエイジャー。忠実なアロン神権者。両親や家族の祝福と助け。人の良き友。未来の宣教師。この二人をはじめ、彼らのような多くの若者たちこそ、ソウェの輝ける未来を代表する存在なのです。「神が我々とともにおられるように!」「主に感謝します!」□



アン・ミシェル・ニールセン

絵/ティリー・マーシュ

わたしはこれまでずっと、自分が母から理解してもらえないと思っていました。母にとって大切なのは自分が決めた規則だけのよう
に思えたからです。どうやって理解を得ようというので
しょう。母はそれまでの人生で間違いを犯したことがない
かのようでした。

わたしは母の規則を守るものかと、母とは反対のことを
行おうと考えたのです。母がいつも感じの良いスカートや
ワンピースを着ていたのに対し、わたしはいつもサイズが
大きく、擦り切れたジーンズをはいていました。礼儀作法
をきちんと守る母に反発し、わたしはそれを無視しました。
母は御霊^{みたま}を家に招き入れるため、あらゆることを行いま
したが、わたしは不適切な音楽を聞いていました。悪の兆
候があるだけでもそれを避けるよう努めた母とは異なり、

わたしは問題のある仲間とつきあっていました。重大な罪
を犯すようなことはしていませんでしたが、わたしが境目
の場所にいるのを母は知っていました。

母はわたしのことを心配し、なかなか眠れない夜を何日
も過ごしました。ある夜母は目が覚め、わたしが寝てい
るのを確かめようとしてしました。しかし、ベッドの掛け布団の
下には、人が寝ているような形で枕が積ま^{まくら}れていました。
母は一晚中わたしの友達や警察、そのほか心当たりのあ
る人には皆電話をかけました。わたしが家に帰ると、母は
外出禁止を告げました。

それから間もなく、わたしは校長に呼び出され、怒りと
反発を感じながら校長室にいました。最近校内で起こった
悪質ないたずらについて、わたしが犯人を知っていること
を分かっていた校長は、犯人を言わなければ、彼らの代



わりに、わたしを停学にするといいました。反抗的になっていたわたしは、黙ったまま返事をしませんでした。そこで校長先生は母に電話をして、翌日1日停学にすると告げました。

今度は母もほんとうに怒り、最も効くお仕置きは何かと考えながら、わたしの帰りを待っていました。それから母は、未完成の屋根裏部屋へ箱を取りに行ったのですが、ちょっとした不注意から、梁を踏み外し、断熱材や乾式壁、プラスターの天井板を突き抜けて下の階に落ちてしまいました。砕けた破片の山の中で激しい痛みを感じながら、母の頭に次のような考えが浮かびました——「自分とミッシェルとの関係は、この天井のようにもろいものだ。一つ踏み外すと足もとから崩れてしまい、取り返しのつかないことになる」。

わたしは学校から帰ったとき、母からの説教を覚悟していました。しかし母は優しく迎え入れ、先の出来事について話し、わたしを愛する気持ちを伝えてくれました。またわたしたちの関係を特に大事にするよう促される気持ちを感じていたので、わたしにも協力してほしいと話してくれました。母の足は足首から上はあざだらけで、ひどい擦り傷になっていました。天井を突き抜けて下の階に落ちたと

き、母がまず考えたのがわたしのことだったと知り、あまりの驚きにほかのことは何も考えられませんでした。幾らわたしでも心がへりくだりました。母とわたしは、愛し、受け入れることを学べるよう、一緒に祈りました。

それは容易なことではありませんでした。態度を変えるには、ほんとうに努力が必要でした。振り返ると、母はずっとわたしのことを思っていてくれたのです。やがて、母はわたしと一緒にいるのを楽しんでいるのが分かりました。二人で楽しめることを行うなど、良い状況の下でともに時間を過ごすようにしました。厳格な母にも別の面があることを発見しました。そして最も重要なのは、わたしの物の見方が変わったことです。以前は古めかしい家庭を恥ずかしく思っていたのですが、今では好んで友達を連れて来るようになりました。わたしたちの関係を強めるには、母と同様、わたしにも責任があることが分かったのです。

わたしの方が天井から落ちればよかったと思いますが、もしわたしが落ちていたら、そのとき御霊のささやきを聞けなかったかもしれません。まだ母を十分に愛せなかったときのわたしにさえ進んで愛を示してくれた母に、これからもずっと感謝し続けることでしょ。□



福音の教えを 改めて 認識する

教会員は福音を教えるのに役立つ、さらに改善された学習資料と教授法を学べるようになりました。

十二使徒定員会会員のジェフリー・R・ホランド長老は、この件に関して1998年度総大会で次のように述べています。「[わたしたちは]家庭、説教壇からの話、管理集会、そしてもちろん各クラスで学ぶ、教会の優れた教えについて改めて認識し、それを尊んでください。」¹

ホランド長老は、ニコデモがイエス・キリストに語った言葉を使って話しました。「先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。」² ニコデモと同様にわたしたちも、救い主が最も優れた教師であられることを認識しており、主について証をし、主が教えられた真理を分かち合う責任があることを理解しています。またニーファイと同様にわたしたちも、「どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために」「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教」するのです。³

教えることへの再認識を呼びかけるに当たりホランド長老は、ヒンクレー大管長が十二使徒定員会会員であったときに与えられた次のような勧告を引用しました。「教会における指導の真髄は、効果的に教えることです。永遠の命は、兄弟姉妹がそのような効果的な方法で教えを受

け、自らの生活を変え、訓練することによってのみもたらされます。強制により彼らに義を行わせ、天国に行かせるのは不可能です。皆が導きを得なくてはなりません。つまり教育が必要なのです。」⁴ さらにホランド長老は、このように付け加えています。「父、母、兄妹、友人、宣教師、ホームティーチャー、訪問教師、神権指導者、補助組織指導者、クラスの教師」それぞれが、天の御父の子どもたちへの教育と救いを供与する教師としての責任を担っています。⁵

教える責任は、召しを解任されてもさらには死すべき生涯から去っても、それで終わるわけではありません。「わたしは、この神権時代の忠実な長老たちが、死すべき世を去っても彼らの働きを続け……悔い改めと神の独り子の犠牲による贖いの福音を宣べ伝えているのを見た」とジョセフ・F・スミス大管長は記録しています。霊界で働く教師にも現世の教師と同様に、神の御子がわたしたちの贖い主であり偉大な模範とすべき御方であられることを証するという戒めが与えられています。⁶

わたしたちには常に教える責任があるので、もっと上手にその責任を果たすにはどうすればよいか今から考えてみてください。幸いなことに教会では、わたしたちが神の御子とその福音についてより効果的に教えるための新しい方法を学ぶ機会と、そのために改善された教授方法を提供できるようになりました。



新しい方法について

1. 福音の教授法という新しい12週間の訓練コースでは、クラスと家庭の両方で活用できる洗練された教え方を学べるようになります。これらのレッスンは、以前行われていた教師養成基礎コースに代わるものです。この新しいコースには、御霊により教えることを学ぶ、学習するための雰囲気をつくる、効果的な教授法を活用する、教師自身の才能を伸ばすといったテーマが含まれています。この訓練コースは実際に教師をしている人たちだけでなく、神権指導者と補助組織指導者、伝道に出る準備をしている兄弟姉妹、ホームティーチャーや訪問教師、そして両親にも適用されるものです。

2. 改訂された『教師、その大いなる召し』(カタログ番号36123 300)[日本語版は、2000年1月下旬出版予定]は、すべての会員、指導者、教師が教会のあらゆる場所で上手に教えるための基本的なテキストとして活用できるようになっています。このテキストには、福音の教授法のレッスン、四半期教師改善集会のための資料、教え方を改善しようと努める指導者への提案、自分の教え方を改善しようとする教会員への多くの優れた指導が含まれています。

3. 『福音教授法の改善——指導者用ガイド』(カタログ番号35667 300)は、教会での福音の教授法を改善する努力がなされていることを管理する指導者のためのものです。

4. 指導者と教師のために開かれる四半期教師改善集会(現在の呼称)は、3つの集会に分かれて行われます。18歳以上の教会員を教えるクラスの教師は、一緒に訓練を受けます。12歳から17歳までの教会員を教えるクラスの教師は、別の集会で指導を受けます。そして初等協会の子どもたちを教えるクラスの教師も指導と訓練を受けます。こうした3つのグループは、それぞれ別々に集会を開きますが、四半期内の異なる月に開くこともできます。

一般的な教師改善集会の議事予定案には、教え方や学び方の原則についての神権指導者もしくは補助組織指導者からの短いメッセージ、教授法やその技術面における紹介、また教師が実際に教えているクラスの人々の具体的な必要を満たすうえで助けとなるアイデアについての話し合

いが含まれます。

こうした3つの教師改善集会は、それぞれその集会に出席している組織の指導者の一人が指導します。集会の準備と指導に関する提案は、『福音教授法の改善——指導者用ガイド』に記載されています。

5. 教師改善コーディネーターは、ステーク／ワード評議会の一員となって、教師改善に最も焦点を当てる必要があるときに、神権指導者と補助組織指導者を援助します。

指示に関する資料について

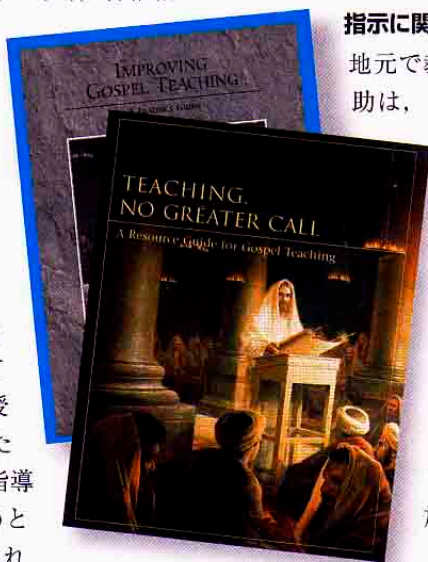
地元で教師改善を行うための一般的な指示と援助は、以下の3冊の書籍に記載されています。

『教会指導手引き 第2部』(35209 300)第16章「福音の教授と指導」、『福音教授法の改善——指導者用ガイド』(35667 300)、および『教師、その大いなる召し』(36123 300)。

『教会指導手引き 第2部』第16章では、特に福音の教授と指導の重要性が強調されており、神権指導者や補助組織指導者がワードやステークにおいて教師改善のための方法を準備し、それを実施するための指針が載せられています。

『福音教授法の改善——指導者用ガイド』では、教会での教授法を改善するため

の3つの重要な要素に焦点が置かれています。その要素とは教師に対する指導者からの助け、教師改善集会、そして福音の教え方コースです。このガイドには、『教会指導手引き』に記載されている指示や説明に従って実施するためのアイデアや提案が盛り込まれています。またこのガイドには、次の訓戒が含まれています。「神権指導者と補助組織指導者にはそれぞれの組織において質の高い福音の教育が実施されるようにする責任がある。彼らはレッスンが効果的に教えられており、また正しい教義が教えられているようにする。」⁷ 最も効果的な教え方とは、もちろん聖霊の助けを伴ってなされるものです。⁸ 教師を助けるための神権指導者や補助組織指導者は、まずレッスンの内容とその提示がともにイエス・キリストを証するものであり、またイエス・キリストの福音の教義と原則を証することに焦点が置かれるように配慮しなければなりません。そうすることによって、御霊が生徒の心にイエスがキリストであられる



という証をもたらしてくれるのです。

『教師、その大いなる召し』も教師の訓練に大切な指導を与えてくれます。この本は長い間、教師養成の基礎資料として使われてきましたが、福音を教えるための原則と方法についてより明確に焦点を当てた改訂がなされています。

この改訂版は、教師や指導者に召された教会員のようにこのテキストを常時活用をする人たちだけでなく、教会

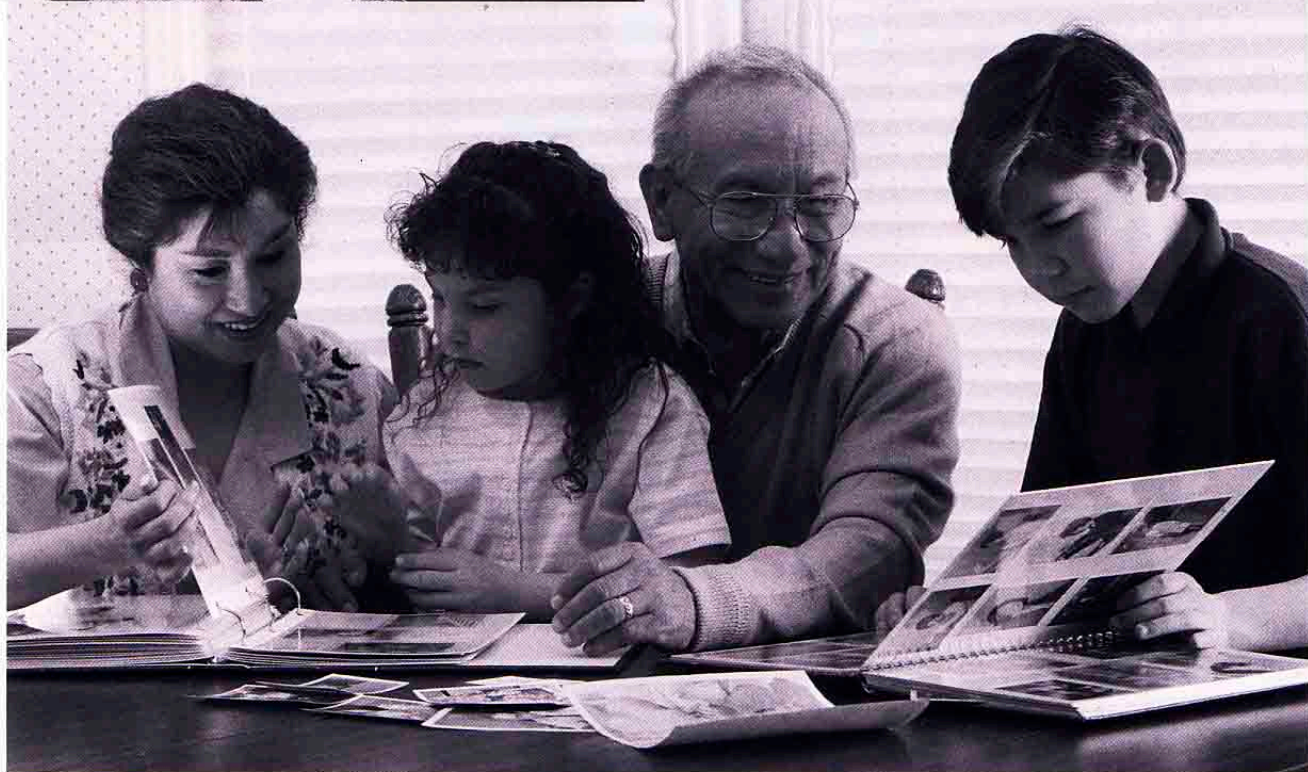
の基本的な学習の場である家庭において、イエス・キリストを証するさらに良い方法と新たな機会を祈りの気持ちで探し求めている両親にとっても非常に貴重な助けになります。両親が教える能力に自信を持つならば、御父と御子イエス・キリストと自分たちとの関係についての永遠の真理を、もっと心にゆとりを持って子どもたちと分かち合うことができることでしょう。

調整作業

教師の教授能力を向上させるために、神権指導者と補助組織指導者は、ステーキ／ワード教師改善コーディネーターと呼ばれる会員の援助を受けることができます。ステーキ



「父、母、兄妹、友人、宣教師、ホームティーチャー、訪問教師、神権指導者、補助組織指導者、クラスの教師」それぞれが、天の御父の子どもたちへの教育と救いを供与する教師としての責任を担っています。

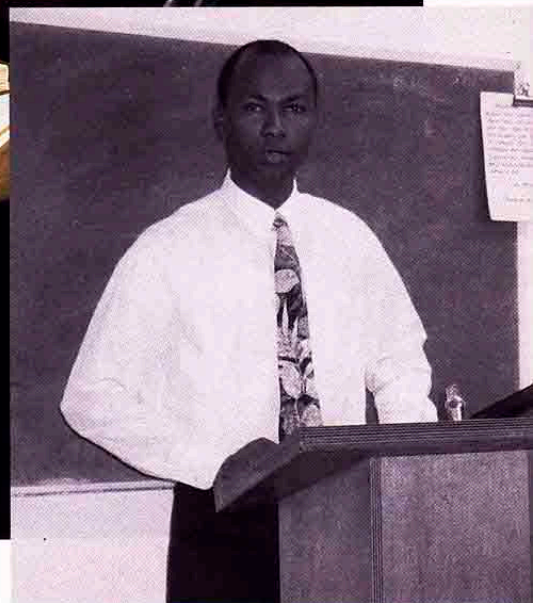


PHOTOGRAPH BY CRAIG DIMOND



写真：マット・ライアー

家庭でも教会のクラスでも、あるいは会員
や指導者が奉仕するいかなる場所でも、
全員が教師の召しを受けます。そして、一人一人に
全力でその召しを果たす責任があります。



クでは、この責任をステークの教師改善を監督する高等評議員が担当し、ワードの教育改善ができるように監督会を助けます。ワードにおいて、教師改善コーディネーターはワード評議会の一員となり、福音の教え方コースの教師としても働けます。

教師改善コーディネーターは、神権指導者や補助組織指導者に教授法改善について提案し、要請があれば教師改善のための案を実施して指導者を助けます。また四半期教師改善集会の計画をするためにワード評議会のそのほかの指導者とともに働きます。

ボイド・K・パッカー十二使徒定員会会長代理は、次のように記しています。

「中央幹部は教師である。ステーク会長と伝道部長は教師である。高等評議員と定員会会長は教師である。監督は教師である。同様に教会のあらゆる組織の指導者も教師である。教会は優れた教えの力に支えられて前進して行くのである。」⁹

そしてスペンサー・W・キンボール大管長はこう教えています。「家庭こそがわたしたちを福音の義における専門家や学者にしてくれる場所である。」¹⁰

現世で教導の業に携わっていたとき、主イエス・キリストは、最も優れた教師であられました。主は教訓と模範によって教えられました。主はわたしたち一人一人が従うように教師の模範を示されました。家庭でも教会のクラスでも、あるいは会員や指導者が奉仕するいかなる場所でも、全員が教師の召しを受けます。そして、一人一人に全力でその召しを果たす責任があります。教会から提供される新しい手引きによって教授法の改善を図る機会を得ることは、教師としての責任を果たすうえでの助けになります。そのことが最終的には、わたしたちが



写真クレイク・ダイヤモンド

**教師の教授能力を向上させるために、
神権指導者と補助組織指導者は、
ステーク/ワード教師改善
コーディネーターと呼ばれる
会員の援助を
受けることができます。**



ほかの人々をキリストのもとへ導く助けとなるのです。

□

注

1. 「神からこられた教師」『聖徒の道』1998年7月号、28
2. ヨハネ3：2
3. 2ニーファイ25：26
4. "How to Be a Teacher When Your Role as a Leader Requires You to Teach," General Authority Priesthood Board Meeting, 5 February 1969; 「神からこられた教師」『聖徒の道』1998年7月号、29にて引用
5. 「神からこられた教師」『聖徒の道』1998年7月号、28
6. 教義と聖約138：57。36-39節も参照
7. 『福音教授法の改善——指導者用ガイド』(35667 300)「効果的な教えが実施されているようにする指導者の責任」の項
8. 教義と聖約42：12-14；50：13-14、21-22参照
9. Teach Ye Diligently (1991), 3-4
10. The Teachings of Spencer W. Kimball, edited by Edward L. Kimball (1982), 129

じゅうぶん

什分の一の習慣

ウィニフレッド・C・ジャーディーン



わたしは孫娘にいつも、什分の一はわたしにとって最高のお金の使い道なのよ、と話しています。

わたしが什分の一を習慣とするようになったのは60年近く前です。大学を卒業してから、わたしは仕事を探すためにシカゴに行きました。ポケットには夏の間働いて得たお金が入っていました。大した額ではありませんでしたが、友人と同居することになっていましたし、1941年当時の物価は安いものでしたから、新たな収入を得るまでの生活費としては十分な額だと思っていました。

シカゴ地区の教会に出席した最初の日曜日、話者の一人が什分の一を納めることの大切さについて説得力ある話をし、また、この戒めに従うことによってもたらされる祝福について証^{あかし}しました。わたしは教会の教えを受けて育てられましたが、それまで什分の一を納めたことは一度もなく、そのことについて考えてみたことさえありませんでした。でも、この聖餐会^{せいさん}でわたしの考えは変わりました。聖餐会后、夏に得たお金を算出し、納めるべき什分の一が幾らであるかを計算し、そのとき持ち合わせていた現金をほとんど出して、夏に得た収入分の什分の一を納めました。バスと電車がかりかろうじて払えるお金が残っただけで、そのうえ仕事もまだ決まっていませんでした。

別の州に住む家族のもとを離れるとき、わたしには両親からの経済的援助なしに自活できる確信があったのですが、このときそんな自信は影を潜めてしまいました。

とうとう数枚の硬貨が残るだけとなったとき、わたしはあるデパートに立ち寄り、無料の便せんを使って、両親あてに援助を請う手紙を書きました。その手紙が両親のもとに届けられるのに3日はかかると考えました。わたしは、そんなに長く持ちこたえられるかしらと心配でした。

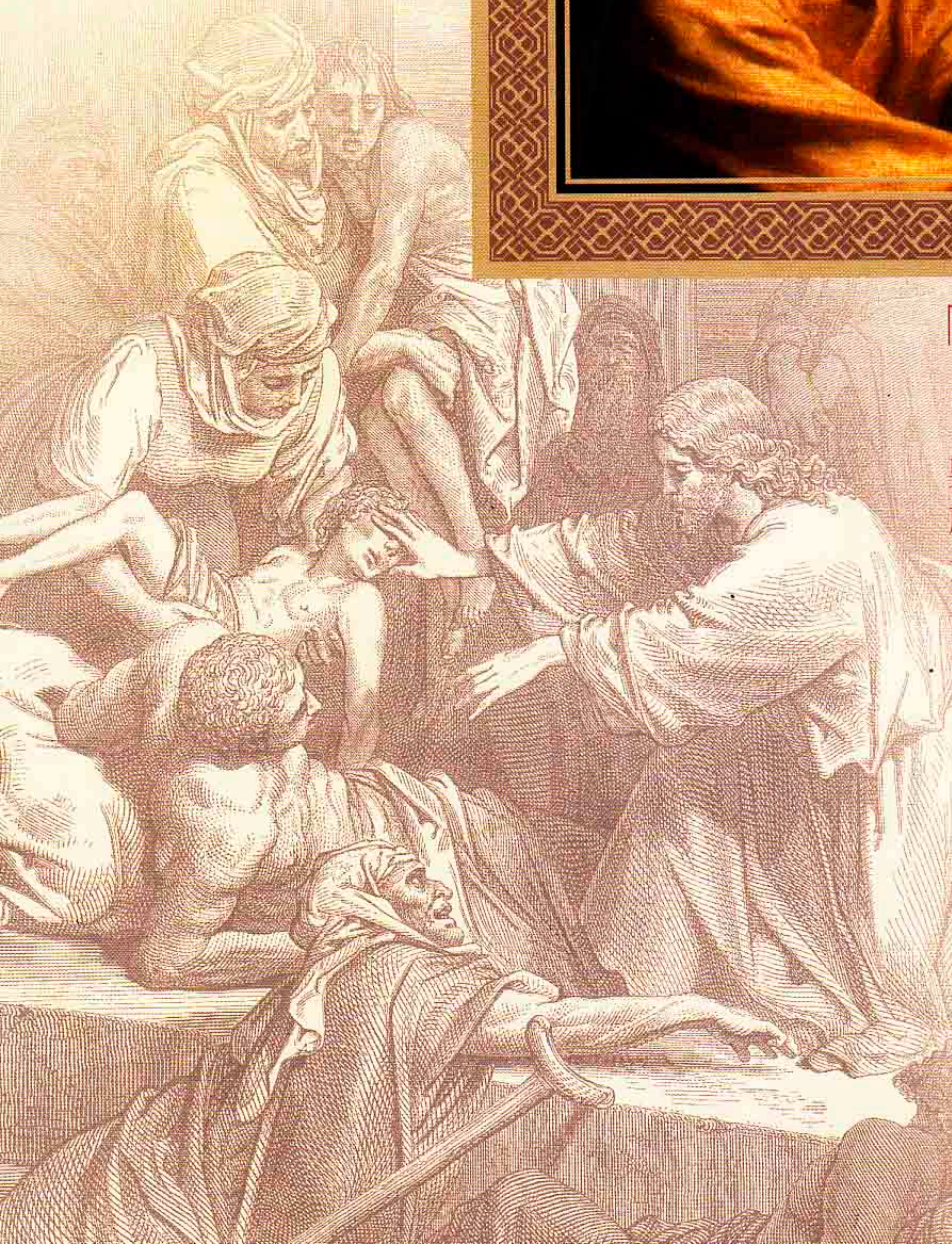
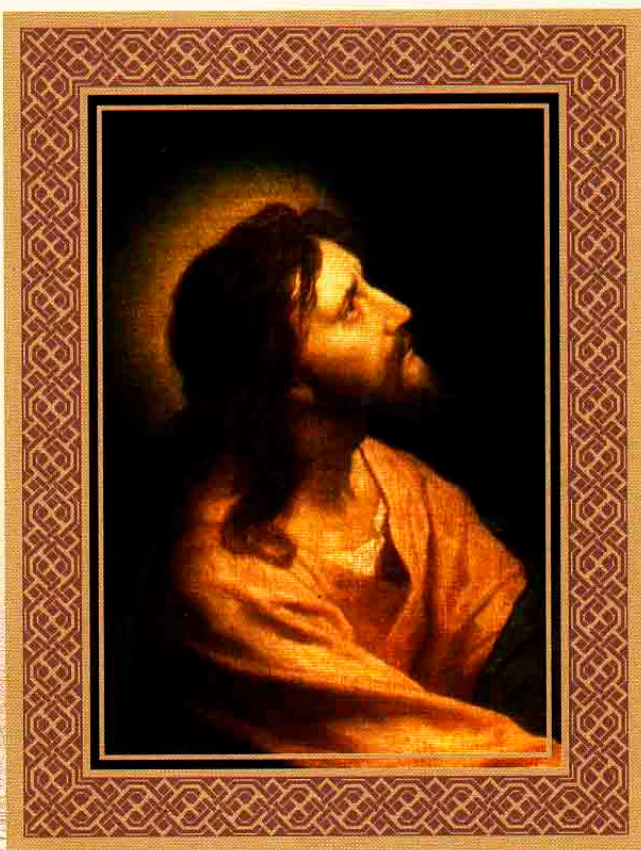
翌日、臨時の職員を求めている会社から電話がありました。(後にわたしはその正社員となりました。)わたしは大喜びで父に電話をかけて言いました。「心配しないで。お金は必要ないからね。」

そのときから、什分の一を納めると必要なものはいつも与えられてきました。ですからわたしは孫娘に言うのです。「什分の一はわたしにとって最高のお金の使い道なのよ。什分の一を納めると、心に平安を得られるの。」□



「ベツレヘムへ旅する博士たち」ジェームズ・ジャーク・ジョセフ・ティソ画（1840-1920年）

「イエスが……ベツレヘムでお生れになったとき、見よ、東からきた博士たちがエルサレムに着いて言った、『ユダヤ人の王としてお生れになったかたは、どこにおられますか。わたしたちは東の方でその星を見たので、そのかたを拝みにきました。』」（マタイ2：1-2）



「わ たしたちのために一人の
みどりごが生まれる。わ
たしたちのために一人の
男の子が与えられる。主権は彼の
肩にあり、その名は霊妙、助言者、
力ある神、永遠の父、平和の君と
となえられる。」

(2ニーファイ19:6。イザヤ9:6参照)



ヒンクレー大管長、 エクアドル、グアヤキル神殿を奉獻する



新たに奉獻されたエクアドル・グアヤキル神殿には
エンダウメントのための部屋が4部屋、結び固めの部屋が3部屋設けられている。
教会広報部の厚意により掲載。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、儀式を執り行える58番目の神殿を奉獻し、また地区大会で語った。大管長会のジェームズ・E・ファウスト第二副管長、十二使徒定員会会員ラッセル・M・ネルソン長老、七十人および南アメリカ北地域会長会会長フランシスコ・J・ビーナス長老、七十人および南アメリカ北地域会長会第二副会長ウォルター・F・ゴンザレス長老が、大管長に同行した。

6月23日から7月5日にかけて行われたオープンハウスでは、約10万8,000人が神殿内を見学した。また、8月1、2両日に行われた8回にわたる奉獻式には、1万1,700人の会員が出席した。ヒンクレー大管長は次のように語った。「人々がこの新しい神殿を心から感謝していると、感じ取ることができます。聖徒たちは神殿を長年待ち焦がれてきました。神殿に集う会衆の中には、リーハイの子孫たちの姿がありました。そのことに大きな関心を持ちました。その人々の多くはリーハイの血統を受け継いでいるのです。彼らの多大な反応や関心を目にするというのは、実に興味深いことです。今、彼らの贖いにとっては大いなる時代です。彼らが献身的で、忠実で、有能な民であることがはっきりと分かります。」

奉獻式の後、ファウスト副管長は次のように述べた。「美しく壮麗な教会の神殿はすべて奉獻が済んでいるか、もしくは建設段階にあります。そしてこれらの神殿は大いなる祝福となるでしょう。人々の生活の中に祝福が見受けられます。この地のすばらしい神権指導者らに結び固めの力を授けたわたしたちは、信仰、献身、決意の民、そして経験豊かな民を見ました。肥沃な地に信仰の種が落ちたのを目にしているのです。」

ネルソン長老は、エクアドルに最初のステーキが1978年に誕生して以来、ステーキの数は32に達し、



エクアドル・グアヤキル神殿の日の栄えの部屋は、
神殿の中心部に位置している。
©Intellectual Reserve, Inc. 複写を禁ず。

人口1,000万人以上のうち、教会の会員数は15万人近くに及んでいることに注目し、次のように述べた。「この地に神殿が存在すること、神殿参入にふさわし

い人々が増すことは、この国と近隣諸国の未来に大きな影響を及ぼすことでしよう。今はこの国の歴史上、大変重要な転換期なのです。」

エクアドル・グアヤキル神殿は床面積4,180平方メートルで、エンダウメントのための部屋は4部屋、結び固めの部屋は3部屋ある。□

エクアドルの歴史的な日

「**ふ**さわしい生活を送り、神殿の祝福を享受してください。」エクアドル・グアヤキル神殿の奉献式前夜である7月31日、巨大なサッカースタジアムで行われた地区大会の席で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は会員に勧告を与えた。

ヒンクレー大管長およびほかの中央幹部の話聞くために、およそ2万2,000人の会員が集った。大管長のほか、大管長会のジェームズ・E・ファウスト第二副管長、十二使徒定員会会員ラッセル・M・ネルソン長老、七十人および南アメリカ北地域会長会会長フランシスコ・J・ピーナス長老、七十人および南アメリカ北地域会長会第二副会長ウォルター・F・ゴンザレス長老が話をした。また夫人たちも同席した。

ヒンクレー大管長は次のように語った。「今日は歴史的な日です。この日のことを、聖徒らはいつまでも記憶のうちにとどめておくことでしょう。なぜなら、

エクアドル史上初の神殿が奉献され、主の永遠の目的が推し進められるからです。わたしたちは祝福されています。この機会を受けたわたしたちは、豊かな恵みを受けているのです。今晚、ここに集われた末日聖徒の皆さんに心からお願いします。決心してください。自分の心の中で、主の宮に行けるようふさわしくなり、そこへ行ってその建物の中でしか受けることのできないすばらしい祝福に浴そうと決心してください。

兄弟姉妹の皆さん、いよいよ明日、儀式を執行できる58番目の神殿を奉献いたします。何十万もの集会所がある一方、神殿は58しかありません。その一つが、まさにそのうちの一つの神殿がエクアドルにあり、この偉大な国の聖徒らを祝福するのです。ほかの場所ではどんな場合でも不可能な祝福や祈りがささげられます。そしてほかの場所ではどんな場合でも不可能な聖約が交わされます。さらにほかの場所ではどんな場合でも不可能な祝福が受けられます。

今晚ここに集っているすべての若い男性と若い女性の皆さん、心の中で決心してください。すなわち皆さんは自分自身を備えて、主の宮に行き、主の御前に立てようふさわしさを保つと決心してください。心を清く保ち、主の偉大な祝福を受けられるふさわしさを保つと決心してください。」

ファウスト副管長は南アメリカの神殿

建築の増加について述べた。「ブラジル・サンパウロ神殿が計画されたとき、わたしたちは南アメリカの教会員全員に献金を求めました。そして現在多くの国々に神殿が建っていることを喜んでいます。」ファウスト長老はグアヤキルの神殿を見た際に、「壮麗さに圧倒される」ように感じた、と語った。

ファウスト副管長は次のように説明した。「ヒンクレー大管長の鍵と権能の下に、建物は明日から儀式の執行を始めます。そして〔J・リン〕ショークロフト神殿長にゆだねられた鍵をもって、皆さんが神殿で受けることになる祝福は、ソルトレーク神殿で受けるものと同様に、有効性と拘束性を生じるようになります。」

ファウスト副管長は、会員たちに備えをし、ふさわしさを保ち、生活を永遠に変えるよう励まし、こう語った。「天の御父は悲しみと苦難の中にあるわたしたちを引き上げてくださいます。そして、わたしたちの祈りに耳を傾けて、罪を悔い改めようとするわたしたち一人一人に愛を注いでくださいます。」

ネルソン長老は会員に感謝の意を述べた。「偉大な信仰、献身、什分の一および献金に感謝します。また宣教師として奉仕しておられる皆さんのお子さんたちに、そして教会での奉仕や善き行いに感謝します。わたしの話のテーマは簡単です。戒めを守りなさい、ということです。」

□

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、1999年8月7日付けの記事より掲載。



7月31日、2万2,000人以上の会員がグアヤキル地区大会に出席するために集った。

写真/ジョン・L・ハート

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により掲載。

ヒンクレー大管長、ベネズエラの教会員に語る

グアヤキル神殿の奉献式の後、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はベネズエラのマラカイボに移動し、8月3日、コンベンションセンターに集った5,300人に語った。

ヒンクレー大管長は次のように述べ

た。「ベネズエラの地で教会を発展させましょう。会員数をさらに増やしましょう。改宗者一人一人にしっかりと手を差し伸べましょう。皆さんにぜひお願いしたいと思います。教会に来る人々を温かく迎えてください。そして友達になり、彼



ベネズエラ・マラカイボ訪問中のヒンクレー大管長にあいさつする地元の教会指導者。

らが歓迎されていると感じ、居心地がよくなるようにしてください。ここに集っていらっしゃる方ほとんどが改宗者の方々です。教会に初めて足を運んだときに感じた孤独感のようなものを分かっているはずだ。老若男女に問わず、バプテスマを受けて教会に入って来るすべての人に温かく、親切になるというチャレンジを、今度は皆さんが受けていただけないでしょうか。すべては皆さんにかかっているのです。」

ヒンクレイ大管長は次のようにも述べた。「教会が発展するということに関して、わたしの心の中には何の疑いもありません。教会は南アメリカ全体で発展していくでしょう。現在は数十万人の会員がいますが、いずれ数百万人に達するでしょう。そしてわたしたちの民は良い生活のために人々から認められるようになります。そして尊ばれ、敬われ、支持さ

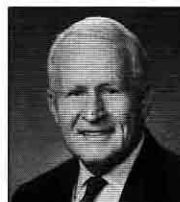
れるでしょう。わたしたちは、もっと多くの集会所を会員の必要を満たすために建て、さらには神殿を建てていくつもりです。神殿では、神聖な儀式を自分自身の

ために受けます。また死の幕の向こう側にいる人々のために、同様の祝福を与えることができます。この教会の未来に何ら疑いはありません。」□

七十人会長会に召されたバンクス長老

大 管長会は七十人会長会の異動を発表した。中央幹部としてこれまで10年間責任を果たしてきたベン・B・バンクス長老が、この度七十人会長会に召された。会長会から解任されたのは、1993年からその召しを果たしてきたジョー・J・クリステンセン長老である。

バンクス長老は1989年七十人第二定員会に召され、1992年に七十人第一定員会に召された。中央幹部としての責任を果たす以前には、スコットランド・エジ



ンバラ伝道部部長、ステーク会長、および3か所のワードで監督を務めた。バンクス長老と夫人のスーザン・カーンズ・バンクス姉妹は、8人の子どもに恵まれている。

七十人会長会のそのほかの会員は、L・アルディン・ポーター長老、ハロルド・G・ヒラム長老、アール・C・ティンギー長老、D・トッド・クリストファーソン長老、マーリン・K・ジェンセン長老、デビッド・E・ソレンセン長老である。□

竜巻、ソルトレーク・シティを襲う

サラ・ジェーン・ウィーバー

8月11日、大型の竜巻がソルトレーク・シティの教会本部付近を直撃し、一人の死者と多数の負傷者が出た。

竜巻は野外小売店のテントを倒し、デルタセンター(プロバスケットボールチーム、「ユタ・ジャズ」の本拠地)の屋根の一



竜巻は、教会の新しい集会施設の建設現場のクレーンをねじ曲げた。

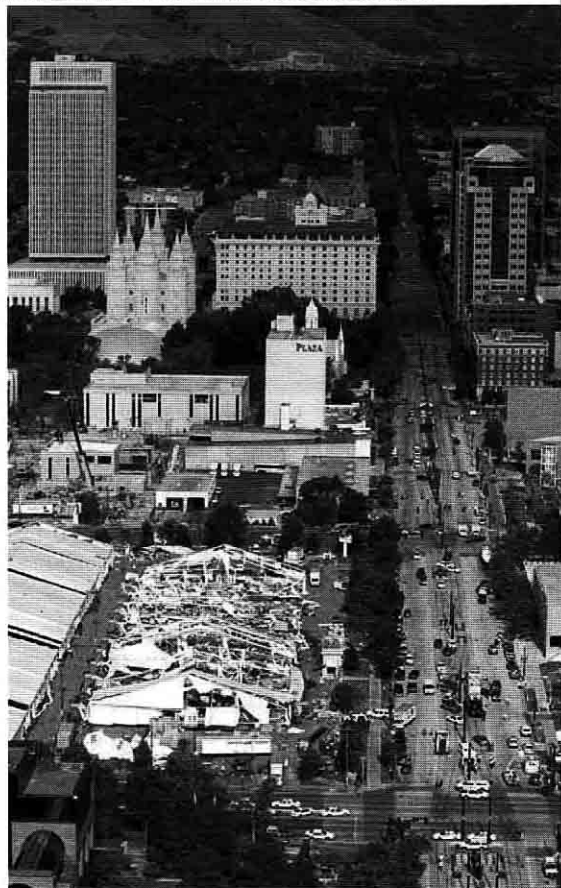
写真/クリステン・ジェコブソン。

「チャーチニュース」(Church News)の厚意により掲載。

部を裂き、著名なホテルの窓を吹き飛ばした後、テンプルスクウェアを通過して打撃を与えた。その後教会の新しい集会施設の建設現場を直撃し、建設用足場を破壊し、クレーンの上半分をなぎ倒した。集会施設の建物への被害は最小限にとどまった。

電線は分断され、教会の家族歴史図書館と教会歴史美術博物館は24時間を超える停電に見舞われた。テンプルスクウェアは近年史上初めて2日間にわたって閉館され、内部では職員が倒木の撤去や割れた窓ガラスの清掃に当たった。しかしソルトレーク神殿は閉鎖されることなく、突風のさなかでもその後も結婚の儀式その他の予約がスケジュールどおりに行われた。新しい集会施設の建設現場で働く1,000人を超える作業員のうち、けが人はたった二人で、いずれも致命傷ではなかった。

負傷者は150人を超え、そのうちの多くが教会員であると報じられている。負傷者の多くは現場で手当てを受け、約50人が近くの病院に運ばれた。教会員ではない、ラスベガスのビジネスマン、アレ



8月11日、竜巻はソルトレーク・シティの市街地に打撃を与え、テンプルスクウェア西側の展示用テントをなぎ倒した。

写真/ゲラリー・マックケラー。

「チャーチニュース」(Church News)の厚意により掲載。

ン・克蘭ディー氏(38歳)は竜巻で命を失った。

竜巻はソルトレーク・シティーの市街地に打撃を与えた後、北東部に進んだた

め、ソルトレーク近隣の37軒の民家が倒壊して居住不能となったほか、数十軒に被害が及んだ。竜巻の発生はユタ州では珍しく、F0-F5段階のうちF2と判定

された今回の竜巻は、ユタ州史上最も破壊力の強いものだった。□

『チャーチニュース』(Church News) 1999年8月14日付けの記事より引用

教会、毎年世界の指導者400人を招待

サラ・ジェーン・ウィーバー

ペルー領事官ジョージ・E・ロマンモレー氏は先般のソルトレーク・シティーへの旅行で、教会に関する、より完全な知識を得た。ロマンモレー氏は教会の人道の救援活動センターを訪問し、物資が教会からペルーへ送られる様子を視察してセンターを後にした。

また、教会の家族歴史図書館を訪問し、父親の写真を持ち帰った。それは若き日の陸軍士官学校卒業時の写真で、ロマンモレー氏が数年ぶりに目にするものであった。

そして十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老主催による晩餐会^{ばんさん}に出席し、感銘を受けて帰途に就いた。

ロマンモレー領事官は、毎年教会が世界各国から招待する、国内外で評価されている400人を超える政府高官の一人である。招待客は家族歴史図書館、教会歴史美術博物館、人道の救援活動センター、ウェルフェアスクウェアを見学する。そしてジョセフ・スミス記念館で映画『レガシー』(『われらの遺産』)を鑑賞し、ブリガム・ヤング大学のキャンパスとプロボの宣教師訓練センターを訪問する。そして大管長会または十二使徒定員会の会員と会見する。

「わたしたちが気づくことは、招待客は教会が行っていることに対して非常に興味を持っているということです。なぜ教会がこんなに急速な発展を遂げているかを知るために、彼らはここに来るのです」とデール・エンザイン兄弟は語る。エンザイン兄弟とエレーン夫人は、大管長会と十二使徒定員会によって召された、教会の接待担当者である。

「教会指導者は、訪問者たちが良い印象を持って教会本部を後にすることを望んでいます」とエンザイン兄弟は説明している。『この重大な目的を達成する

ための最善の方法は、教会とその施設が訪問者に語りかけるに任せることです』と、ジェームズ・E・ファウス^{ファウス}ト第二副管長は言われました。」

テンプルスクウェアでは、世界中から集まった人々が、姉妹宣教師によって30か国語のいずれかで説明が行われるツアーに参加している。こ

のことに、エンザイン兄弟は訪問者の多くが特別な関心を示すとも述べている。

ウェルフェアスクウェアと人道の救援活動センターでは、訪問者は自立の原則の実践を目の当たりにする。「教会を冠にたとえるなら、人道の救援活動センターは、そこに飾られた宝石です。招待客は自分たちが目にするものに感動します。『このようなことが行われているとどれかが話していました。あなたがたがこのような取り組みをしているのですね』といった感想をよく耳にします。」

ロマンモレー領事官を例にとると、彼は「そこで行われている働きに非常に感銘を受けて」教会の人道の救援活動センターを後にした。また多くの招待客にとってそうであるように、ロマンモレー氏にとっても、末日聖徒の人道の救援活動は自国で身近に経験したものであった。ロマンモレー氏がソルトレーク・シティーを訪問する前に、中央幹部は洪水の被害者救済のために、物資の入った8つのコンテナをペルーに送り届けていたからだ。



教会の人道の救援活動センターを見学する、ペルー領事官のジョージ・E・ロマンモレー氏(右)とジーナ夫人。ペルーの指導者を案内する教会ホスティング・アシスタントディレクター、ロバート・H・クライスト。

写真/スチュアート・ジョンソン。

【チャーチニュース】(Church News)の厚意により掲載。

「わたしたちの国は、常に援助を必要としています。」ロマンモレー領事官は語ります。「ペルーの人々は、モルモン教会が何を与えてくれたかを知っています。」彼はまた、教会は人々が見習うべき模範を示しているとも付け加えた。「災害が起こるのを待つ必要があるとは思いません。わたしたちは自らを組織しなければなりません。」

氏の教会家族歴史図書館訪問中に感動的な出来事がもう一つあった。「わたしはたまたまこの[家族歴史に関する]本を開いたのです。すると本の中にあるほかの多くの写真に混じって父の写真があったのです。」ロマンモレー領事官は説明します。「わたしはその写真が自宅にあることを思い出しました。これをユタ州で見つけるとは予想もしていませんでした。」

招待者はソルトレーク・シティーを訪れるとき、教会に対してある種の疑念を持っていることが多いとエンザイン兄弟と姉妹は言います。「けれどもここを去るとき、彼らの態度は変わり、ここで学ん

だことに喜びを感じています」とエンザイン兄弟は続けます。

世界中からやって来るすばらしい人々とかわることによって、自分自身の態度も変化したと、エンザイン姉妹は付け加えた。「わたしたちは彼らすべてを愛しています。彼らに会うことによって世界に対してよい感情を持つことができます。」

州知事、一国の大統領、大使、領事官、国際的に認知された指導者、人道主義者など要職にある人々のソルトレークへの訪問は、ある意味で次のようなイザヤの

預言の成就である、とエンザイン兄弟と姉妹はともに感じている。「主の家の山は、もろもろの山のかしらとして堅く立ち、すべて国はこれに流れて〔来る。〕(イザヤ2:2)」

これら指導者の多くが教会に対して抱く大きな尊敬の念に触れて、エンザイン兄弟はある大使との出会いを回想している。「その大使は断食の律法を理解するようになりました。人々が食事を抜くことによって節約したお金が、貧しい人や困っている人のためにどのようにして

教会に寄付されるかを理解してくださったのです。人道的救援活動センターを訪問したとき、その大使はディレクターに封筒を差し出してこのようにおっしゃいました。『この2日間の朝食を断ちました。これはわたしからの寄付金です。』

エンザイン兄弟は言います。「これらの指導者が教会本部を訪れるときに、実に、理解という掛け橋が築かれるのです。」□

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、1999年8月7日付けの記事より掲載。

合衆国上院議員、アジアならびに環太平洋地域の各国大使を歓待

13のアジアならびに環太平洋地域諸国からの大使が、オレゴン州選出の合衆国上院議員ゴードン・スミスの自宅でレイの花輪とウクレレによる歓迎を受けた。スミス上院議員は、ワシントンD.C.ステーク、ボトマック南ワードの会員でもあり、教会、ブリガム・ヤング大学ハワイ校、そしてポリネシアン文化センターのスポンサーによる、今回の催しの接待役を務めた。

同席した9人の教会員である下院議員やほかの来賓とともに、大使らはルーアウ式(訳注——ココヤシのクリームと鶏肉またはタコと煮込んだタロイモの葉の料理)の晩餐会^{ばんさん}でもてなしを受けた後、観衆を魅了するファイヤードダンスをはじめとした、ポリネシアン文化センターのショーを満喫した。

「その夕べが終わるころには、招待客の顔に際立った変化が見られました。こ

の夜の出来事が文化の壁を取り去ったのです」と大学教育振興に携わるブリガム・ヤング大学ハワイ校副学長のナプア・ペーカーは語った。144人が参加したこの催しは、多くの友好関係を築く^{けんきんやく}牽引役になったと、彼女は説明する。フィジー大使の妻であるジョアンナ・マシレワは、踊り手のゲイリーン・リリノとの友好を再び深めた。マシレワ夫人の祖母はかつて、フィジーの教会が運営する学校でゲイリーンの教師を務めたのだ。

ワシントンD.C.で教会の国際関係のディレクターを務めるアン・サンティーニは、こう語った。「招待客一人一人が、熱心な教会員と友好的で忘れ難い交歓をして、スミス家を後にしたことを確信しています。」□

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、1999年7月24日付けの記事より掲載。



ニューメキシコ代表のトム・ウダルとオレゴン州選出上院議員ゴードン・スミス、中国大使の李 肇星と対面。

写真/カール・ミラー

『チャーチ・ニュース』(Church News)の厚意により掲載。

教会音楽ワークショップ開催

R・スコット・ロイド

今年で21回目を迎える教会音楽のワークショップが、ブリガム・ヤング大学スクール・オブ・ビジネス(Brigham Young University School of Business)のスポンサーと、中央教会音楽委員会の協賛により、8月3日から6日にかけてブリガム・ヤング大学で開催された。

基調講演は8月3日に、ブリガム・ヤ

ング大学英語学部の学部長であるジョン・S・タナー兄弟によって行われた。タナー兄弟は、彼と彼の愛する人々がシオンの賛美歌を歌うとき、また彼自身賛美歌の作詞に勢力を傾けたとき、主は彼の頭^{こうべ}に祝福を注がれた(教義と聖約25:12参照)と述べた。

「例えば2,3週間前の日曜日の夕べの

ことでしたが、妻のスーザンとわたしが、子どもたちとその友人2,3人とともに、自然にピアノの周りに集まったときの貴重な家族の経験を思い出します」と語った。タナー兄弟が居間に行って、ピアノの傍らで歌い出すと、すぐに奥さんが一緒に歌い伴奏した。「子どもたちも一人ずつ加わりました。娘の一人は友人も連れて

来ました。わたしたちが歌うと、御霊が確かにその部屋に注がれ、わたしたちの心を、主とお互いに対する愛で満たしてくれました。わたしたちは、それぞれ好きな賛美歌を選びました。わたしたちは賛美歌の詩を通して、心の内にある真理を言葉で伝えることができます。また、メロディーを通して、証の持つ豊かな情感や、現代の慣習では両親と10代の子どもたちが率直に恥ずかしがらずに分かち合うことがまれになった喜びを表現することができます。」

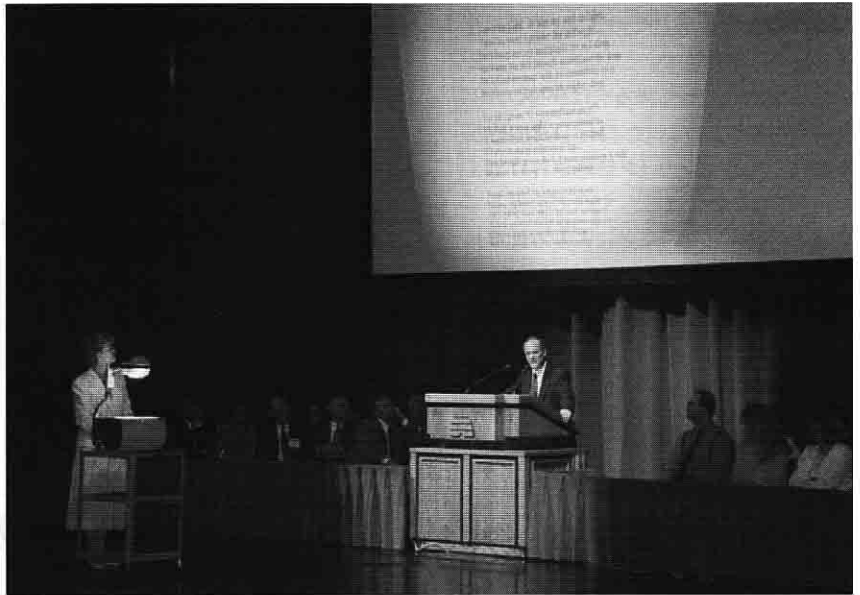
タナー兄弟は少年時代、南カリフォルニアからユタへ家族旅行をした。このとき、いちばん楽しかった思い出は、「夜ふけに車の前座席に座る両親の間にちょこんと座って、彼らが古き良き時代の歌や、『主は生けりと知る』や『絶えず頼り主求む』を歌うのを聞いたことです」と語った。

「多くの年月を経た今でも、両親がこれらの歌を歌ってくれた懐かしい記憶に込み上げるものがあります。そういう機会から、わたしは両親の抱いている故郷に対する愛、救い主に対する愛、そしてお互いに対する愛を学びました。何という祝福された思い出でしょう。両親が心の歌を神に高らかに歌ったおかげで、わたしの頭には何という祝福が注がれたことでしょう。」

さらにタナー兄弟は、賛美歌を愛することは、そこに書かれた言葉を心で理解し、詩の持つメッセージについて語る助けとなる、と語った。

ワークショップの間、中央教会音楽委員会の委員長を務めるマイケル・F・ムーディ兄弟は音楽に関する方針と手順について質疑応答の時間を設けた。しかし、ムーディ兄弟は方針と手順に関する回答の、真のよりどころは『教会指導手引き』であることを強調した。

彼はこう語る。「もし、わたしたちが大まかに観察して、教会がどんな様式であるのか理解できれば、多くの事柄にどういった標準の手順が当てはまるのかが見えてきます。そして、そこから神権指導者は必要に応じ、靈感によって例外を設けることもできます。しかし、例外がルールそのものになって



ブリガム・ヤング大学の教会音楽に関する毎年恒例のワークショップで、基調講演を行うブリガム・ヤング大学英語学部学部長であるジョン・S・タナー兄弟。

写真/R・スコット・ロイド。『チャーチニュース』(Church News)の厚意により掲載。

しまったらどうなるのでしょうか。変更された様式が入って来ることになります。これは世界中に広がる教会です。そして、手順というものは分かりやすく、万国共通に保つことが重要です。」

以下は、セッションの合間に交わされた2、3の質問に対するムーディ兄弟の回答の抜粋である。

質問——『教会指導手引き』では静かな前奏と後奏について言及しています。これは、常に静かな曲でなければならないという意味ですか。

回答——なぜ、静かなのでしょうか。それは、これらがわたしたちに、啓示の静かな細い声を聞く準備をさせるためのものだからです。大きな音では、前奏曲そのものの働きに対する逆効果となってしまうことがあります。それに、わたしたちは集会の御霊が後奏曲に添うように、こまやかな配慮をする必要があります。そうすれば、聖徒たちは心に感じたそのままを保つことができます。

質問——聖餐会と次の集会の間に、静かなオルガンの間奏曲を流してもよいのでしょうか。

回答——これは中央幹部が、わたしたちが行わないものの一例として挙げているものです。簡素な様式のケース

としては、これは行いません。そしてもし、それを始めると、『教会指導手引き』に見られる、聖餐会のための基本的で、分かりやすいはずの概略に、新たな要素を作ってしまうことになります。現在は11項目あり、そのうち6つはすでに音楽にかかわることですから、7番目を追加するのはやめておきましょう。

質問——聖餐会では賛美歌と国歌のみを演奏すべき理由について、簡単な記述が『教会指導手引き』には載っていますか。

回答——方針は次のとおりです。賛美歌は礼拝のための標準音楽であり、もしほかの音楽が使用されるとしたら、それは賛美歌の御霊と調和するものでなくてはなりません。皆さんの神権指導者が、ワードでは賛美歌のみを演奏すべきだと言われれば、それに従うべきです。もしそれに反対ならば、祈りの気持ちと、また最高の思いやりをもって、自分の気持ちを伝えてください。でもその後は、神権指導者の提案に従ってください。わたしの個人的な意見としては、聖餐会で賛美歌をしのぐものは選び抜かれた良い音楽ですし、また賛美歌そのものの美しさと、簡潔さをもって歌われる賛美歌をしのぐものは、良い賛美歌をアレンジしたものだ

と思います。

質問——日曜日の集会を制限する大管長会の手紙の内容は、聖歌隊のリハーサルにも当てはまるのでしょうか。

回答——質問は、1999年2月11日に大管長会から出された手紙についてのことですね。あの手紙の目的は聖歌隊を排除することだったのでしょか。いいえ、そうではありません。それは家族がもっと多くの時間を一緒に過ご

し、安息日に子どもたちに福音を教えるよう勧めたものです。原則はこうです。わたしたちは、安息日をあらゆる集会で埋め尽くしたくはありません。また、『賛美歌』にある大管長会のはしがきでは、教会のすべてのワード・支部が、定期的に演奏を行う聖歌隊を組織するように述べています。これが当てはまるならば、時折、聖歌隊の練習が必要でしょう。いつがいちばんよい

のかは個々のユニットで考えてください。多くのユニットでは、3時間プログラムの後に行う場合があります。そうすれば、人々はそこに来ているのですから、わざわざ別の日にやって来なくて済みます。ところで、わたしなら1時間だらだとやるよりも、短時間で効果的な聖歌隊の練習にします。□
『チャーチニュース』(Church News) 1999年8月7日と14日付けの記事より引用。

「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 1999年12月



以下は、初等協会の指導者が『リアホナ』1999年12月号に掲載の「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は本号「フレンド」12-13ページ「しゅの来られる時」を参照する。

1. キリストが地上に戻られ、1,000年間地球を統治される福千年の生活がどのようなものになるかさらに学ぶために、子ども二人にテレビニュースの司会者のロールプレイをさせる。また、各々のクラスから一人レポーターを選ばせ、聖文から以下のテーマについてクラスで発見したことを報告させる。動物(イザヤ11:6-9; ホセア2:18)、人々(イザヤ54:3; ミカ4:4; 教義と聖約63:50-51)、国々、政府(ミカ4:1-3; エレミヤ31:33; 教義と聖約29:11)、主の来られる時(マタイ24:36, 44)、シオンとエノクの町の帰還(教義と聖約45:66, 71; モーセ7:62-64)。各クラスがテーマについて学んだことが分かるよう、レポーターに尋ねる質問を司会者に考えさせる。救い主がいつ来られるかは正確に分からないが、主に会うための備えをしなくてはならないことを説明する(マタイ25:1-13参照)。「主の来られる時」(『子供の歌集』46; 『聖徒の道』1993年4月号、こどものページ、8-9)を歌う。それから備えるためになすべきことについて話し合う。

2. 博士の物語を話す(マタイ2:1-11)。主がどのように博士を祝福されたか説明

する。またマリヤ、ヨセフ、幼子イエス(マタイ2:12-15参照)が危険から逃れるよう、どのように助けられたかについても説明する。博士はイエスに贈り物をささげた。多くの文化圏では、クリスマスの時期に子どもたちは靴下をつるしたり、靴やそのほかの物を置いたりして、贈り物を入れてもらう。クリスマスに贈り物を交換するように、わたしたちが降誕をお祝いする御方にも贈り物をするよう心に留めておくことができる。救い主にどのような贈り物をささげることができるか話す(毎日聖文^{あかし}を読む、日々祈る、日記をつける、友達に証^{あかし}を述べる、罪を悔い改める、弱点を克服する、敵を赦す、親切な行いをする、など)。子ども一人一人に、靴下、靴、贈り物の箱など、自国の文化に適した形の紙を一枚ずつ配る。子どもに紙の表をきれいに飾って、裏にはクリスマスに自分が救い主にささげる贈り物を書かせる。子どもに家庭の夕べで家族とこの活動をするよう勧める。

3. 主の再臨の前、または再臨時に起きるすばらしい出来事を幾つか子どもに教えるため、活動を準備する。厚紙でクリスマスツリーを作り、オーナメントの裏面に聖句か歌の題名(もしくは両方)を書く。一人ずつ子どもにオーナメントを選ばせる。聖句を読んで話し合い、歌を歌う。聖句と歌の例——福音がすべての国々に宣べ伝えられる一黙示14:6、「宣教師になりたいな」(『子供の歌集』90); 真理が洪水のごとくに地を満たす—モーセ7:62、「イエス・キリストの教会」(『子供

の歌集』48; 『聖徒の道』1990年2月号、こどものページ、11); 十部族が集められる—信仰箇条1:10; エノクの町が戻る—モーセ7:18, 63, 「共に愛し合え」(『子供の歌集』74); リーハイの子孫がモルモン書を受ける—エノス1:13, 16, 「いのりながらみ言葉読む時」(『子供の歌集』66); 義が勝利を得る—教義と聖約45:66, 71; 「おそれすぎをなせ」(『子供の歌集』80); すべてのひざかがみ、すべての舌がイエスがキリストであることを告白する—モーサヤ27:31, 「うるわしき救い主」(『聖徒の道』1998年10月号、こどものページ、4-5)。再臨が近づくと困難なことも起きるが、これらの良い事柄を心待ちにできることを子どもたちに告げる。備えていれば、恐れることはない。主は約束されている(教義と聖約38:30参照)。義人が喜びの歌を歌うのは、救い主がわたしたちとともに住まわれるからである(教義と聖約29:11; 教義と聖約45:71参照)。「救い主の愛」(『子供の歌集』42-43; 『聖徒の道』1994年3月号、こどものページ、6-7)を歌う。

4. そのほかの参考資料。「クリスマスカレンダー」(『リアホナ』1999年12月号、フレンド、8-9, 16); 「あたたかいのは、近づいているからよ」(『リアホナ』1999年12月号、フレンド、10-11); 「わたしは、イエスさまのさいりんをしんじます」(『聖徒の道』1995年9月号、こどものページ、10-11); 『福音の原則』41-44章。□

日本福岡神殿にモロナイ像を設置

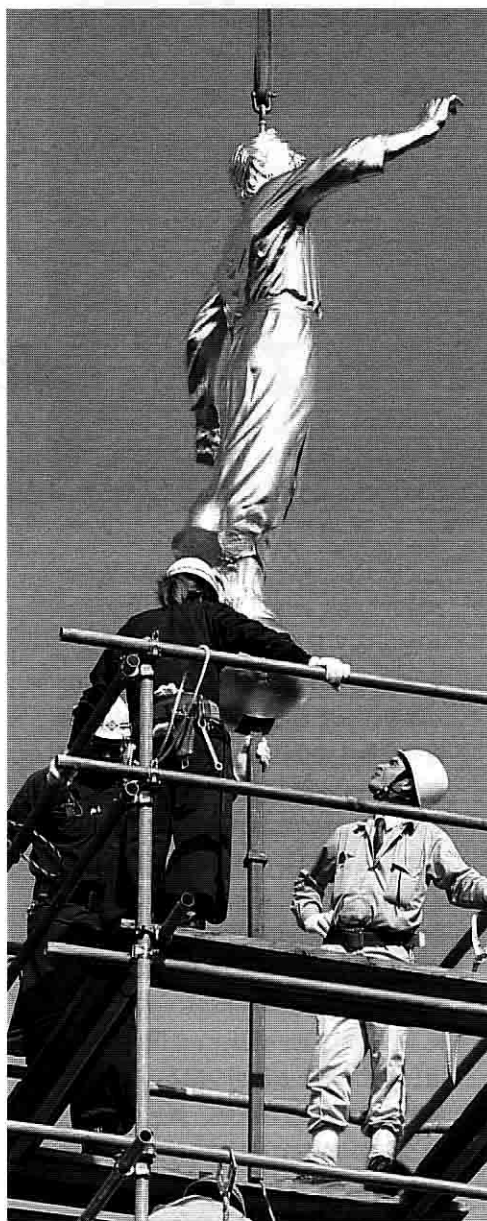
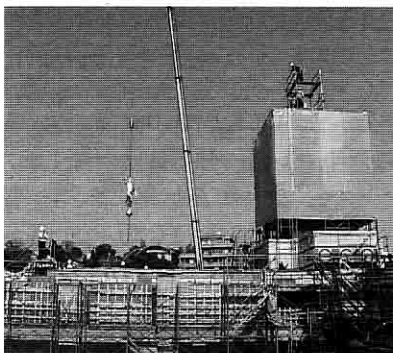
その日、福岡はどんよりとした朝を迎えた。気象情報は「曇り、ところにより昼ごろ雨または雷雨」と告げた。

1999年11月8日月曜日、福岡地方に住む教会員たちは、とりわけ午後の天候を気にしていた。その日は日本福岡神殿の尖塔部に天使モロナイの像を設置する工事が予定されていたからである。しかし降水確率は正午以降50パーセント。予報のとおり、朝から福岡地方は雨となった。日の光を遮る厚い雲の下、建設中の神殿は雨に打たれていた。雨はやむ様子を見せず、辺りはまるで夕方のように暗かった。

ところが、モロナイ像がクレーンで設置される予定の午後1時半が近づくとつれ、徐々に雨は弱くなり始め、空も次第に明るくなっていった。天候の好転に励まされるように、この特別な工事を見ようと多くの兄弟姉妹が神殿の周りに集まって来た。

福岡ステーキの山下会長や熊本ステーキの田代会長はじめ、多くの教会員が現場に駆けつけた。ちょうどこの日、福岡伝道部ではブーン大会が行われており、大会に出席していた宣教師たちも、マッカーサー伝道部長夫妻とともにこの記念すべき作業を見守っていた。集まった教会員の数は、平日の日中にもかかわらず宣教師を含めて100人以上にも上った。

そして午後1時半、見渡すかぎりの青空に一片の雲もない、さわやかな小春日和に恵まれた。集った教会員たちは口々に、好天の祝福を喜び主に感謝した。



大きなクレーン車が、空高く腕を伸ばし、福岡神殿の屋上に置いてあったモロナイ像を持ち上げ始める。太陽を受けて金色に光り輝くモロナイ像が姿を現し、空高くつり下げられるや、歓声が沸き上がった。観衆の中には、モロナイ像が想像よりも大きいことに驚く声もあった。辺りには写真を撮る人や、家庭用ビデオカメラで撮影する人たちが熱心にファインダーをのぞく姿が見られた。

およそ4分の時間をかけて、モロナイ像は神殿の尖塔の真上に到達した。塔

の上に組まれた足場に、数人の作業員がモロナイ像を塔に固定する鉄芯を確保する。やがてモロナイ像は東の空に顔を向け、神殿の尖塔へと慎重に固定された。

やがてラッパが取り付けられ、モロナイ像が完成すると、観衆から拍手と再びの歓声が上がった。



彼らは一様に神殿の完成が間近に迫ったことを実感していた。集まった教会員の中には子ども連れのお母さんの姿もよく見受けられた。「いつも月曜日の学校は5時間目までであるのですが、不思議と今日は4時間で帰って来たので、ぜひ子どもたちに見せてやりたいと連れて来ました。」「こうやって実際に見て、肌で感じることによって神殿の大切さを伝えたいと思います。」

また、喜びと興奮を抑え切れない面持ちで語る声もあった。「朝から降っていた雨が見事に晴れて、日差しがモロナイ像を照らしているのを見て感動しました。」「同じように雨が上がった^{みこころ}_{みこころ}のときを思い出しました。神様の神殿なので、やはり天候も御心に添うのだと思いました。」「この感動を、家族と友達と世界中の人に伝えたいです。うれしいです。」「兄弟姉妹が、神殿の完成を心待ちにして、建築の途中を和やかにともに見守っているというのは、とても平安な気持ちになりました。」

モロナイ像の設置が終わると、快晴だった空には再び雲がわき上がり、やがて全天を覆った。しかし集まった教会員たちの心には、陽に光り輝くモロナイ像の印象が永くとどめられることになるだろう。□

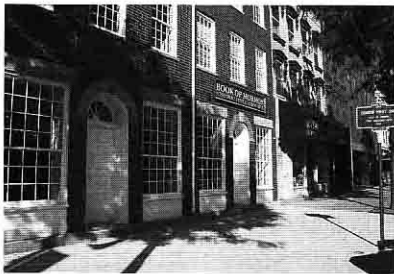


レポート: 訪問者センターで働く日本人宣教師たち

●パルマイラ発

ニューヨークの伝道部で働くように召しを受けた藤本千優姉妹は、大都会で宣教師としての責任を果たすのだと胸を高鳴らせた。しかし、実際には高層ビルもなければ、車の渋滞もない。ニューヨーク・ロチェスター伝道部。これが彼女の所属する伝道部で、時折、野生のしかが森の中へと駆け抜ける光景さえ見られる、自然豊かでのどかな場所だった。

藤本姉妹が住んでいたユタ州から赴任したのは、今年の3月、ちょうど早春のころだった。ロチェスター伝道部のパルマイラにある訪問者センターで働くように召された。彼女が現在、おもに担当するのは3か所の訪問者センターである。クモラの丘訪問者センター、そこから北へ数キロ離れたジョセフ・スミス・ファーム、さらに数キロ北へ離れたグランディン・ビルディングである。そのほとんどが教会の歴史に大きくかかわる場所で、



史跡として保存されている。ジョセフ・スミスがモロナイから金版を受け取ったクモラの丘の頂には、その出来事を象徴するように金色に輝く記念碑が建てられている。かつてジョセフが家族と住んでいた家が復元されている場所は、ジョセフが初めてモロナイの訪れを受けた所でもある。そして、家族の協力を得ながら略奪者から金版を守った場所でもある。グランディン・ビルディングでは、7か月もの歳月を費やし、最初の5,000部のモルモン書が印刷された。これらの歴史的な場所を交代で回りながら、訪問者に教え、証を述べるのが藤本姉妹の責任である。

「訪問者センターで働いてはいるんですが、普通の宣教師と同じように戸別訪問も行います。午前中を訪問者センターで過ごし、午後は自分たちの担当する地域で伝道したりしています。半分半分、今でも両方の役割をしています。」3つの史跡と自分の担当地域を走り回るといって藤本姉妹にとって忙しい生活が続く。「訪問者センターは、月曜から土曜までは9時から6時まで開館しています。日曜日は11時から6時です。日曜日に訪問者センターで働く割当を受けた宣教師は、聖餐会^{せいさん}だけに出席して、すぐに訪問者センターへと向かいます。」

日曜日であっても歴史的な場所を訪れる人々は多く、訪問者のために宣教師たちは休みなく働いている。しかし、ニューヨーク州とはいえ、一般的な観光地とは離れているので、日本人が訪れることはほとんどないという。しかも藤本姉妹はロチェスター伝道部に初めて召された日本人の宣教師であり、同僚も含め近くに日本人はだれもいない。日本語で教えたり、証をしったりする機会もほとんどない。

「伝道するときには英語だけです。この辺りでは、おもに戸別訪問をしています。わたしの担当する地域には大きな住宅地があって、たくさん伝道しなくてはいけないのですが、昼間はほとんど人が



藤本千優姉妹

左側写真上から、モルモン書の初版が印刷されたグランディン・ビルディングとその内部の印刷工房、パルマイラの訪問者センター。

右側写真上から、モルモン書の記念碑の前の藤本姉妹と同僚、当時のままに復元されたジョセフ・スミスの丸太小屋とその屋根裏部屋の寝室。若きジョセフはこの寝室で天使モロナイの訪れを受けた。



いません。共働きの多い地域なんです。1時間戸別訪問しても、3、4軒がドアを開けてくれればいいかなという感じです。証をしているとき、相手がわたしの英語を理解できなかったり、相手の質問をこちらが理解できなかったりといった苦勞も時々あり、レッスンのときにうまく説明できなかったりすることもあります。そのようなときはとても悔しいです。」どの地域であっても母国語以外の言葉で伝道続ける宣教師にとっては、苦勞は同じなのかもしれない。そのため藤本姉妹にとって、訪問者センターを訪れた人たちに証をするのは貴重な経験につながっている。「史跡を案内した最後に証をするのですが、そのときに一緒に証をしていただいたこともあります。すばらしい証を分かち合っていたいただくことによって

成長する機会があり、それが後で自分の伝道生活に役に立つこともあります。」

献身的に働く藤本姉妹のことをほかの宣教師たちは「彼女が来ると場所の雰囲気が変わって、“サンシャイン”がさしたようになる」と表現する。それを聞く藤本姉妹の笑顔は、まさに光り輝いているように見える。「訪問した人からお礼の手紙などが届くとうれいいます。やはり、特別な場所で伝道しているという感じはあります。」彼女が「特別な場所」と表現するここでは、クモラの丘で野外劇が開催されるときなど、教会を中傷する人たちの辛辣な言動に対応を迫られることもある。そしてまた、この「特別な場所」には新たな神殿も建設されている。藤本姉妹に限らず、世界中で伝道している宣教師たちにとって、自分が召され、福音

を伝えている地域はどこであっても恐らく「特別な場所」なのであろう。彼らと同じように藤本姉妹も、自分の伝道地とそこに住む人々に強い誇りと関心を持っている。

「気分転換するときにはクモラの丘に上ります」と大きな笑顔を見せる藤本姉妹は、久しぶりに日本語で証をしてくれた。一生懸命に伝道し、訪れる人たちに証を伝える彼女は、今日も元気いっぱい主の業に励んでいる。そんな藤本姉妹には、疲れた体を癒せる自分たちのアパートが、もしかしたら最も落ち着く「特別な場所」なのかもしれない。藤本姉妹と同僚が住む小さなアパートの後ろには、14歳のジョセフ・スミスが父なる神とイエス・キリストにお会いした「聖なる森」が広がっていた。□

●ソルトレーク・シティー発

“小さな世界”に働く8人の日本人宣教師たち

1999年の10月3日の第169回半期総大会とともに、入植時代から使われてきたタバナクルでの大会の歴史は幕を閉じた。ヒンクレイ大管長の「グッドバイ・オールド・タバナクル」という最後の説教が終わった後も、別れを惜しむように多くの人たちがテンブルスクウェアを埋め尽くしていた。教会員だけではなく、他宗派の指導者、地元のVIP、メディアの関係者たちも多く参加する大会となった。そうした人々であふれる中を、トランシーバーを持ったり、ポケットベルの呼び出しを気にしたりしながらも、笑顔で何人かの人たちを案内している女性たちの姿があった。行き交う人たちに穏やかにあいさつをし、礼儀正しく道を譲っている。ソルトレークのテンブルスクウェア伝道部に働く姉妹宣教師たちである。この伝道部には若い男性の宣教師の姿はない。

古いタバナクルでの最後の大会が開催されたとき、そこには8人の日本人姉妹宣教師が召されていた。伝道も終わりに近づいた小川由美姉妹は、テンブルスクウェアでの伝道の経験を次のように語る。「日本で伝道するのと違って、世

界の目から見たこの教会の位置というのが分かるようになりました。様々な国からの宣教師が集められていて、同じモルモン書を使って伝道しています。信仰の中心としてイエス・キリストがいるということがよく分かりました。」テンブルスクウェアの敷地内には、まさに小さな世界がある。現在、40か国から宣教師が召され、36の言語で伝道が行われている。様々な国からやって来た姉妹宣教師たちが、一つの信仰の下に、証を述べ、親切に訪れる人たちに接している。

高橋こずえ姉妹は、テンブルスクウェアの独特な環境に触れながら、訪れる教会員の助けにも感謝している。「ソルトレークの中で伝道しているので、テンブルスクウェアでわたしたちが案内するのは教会員の方が多くかと思いましたが、実際には、教会員ではない人の方が多いです。夏休みになるとホームステイや留学でアメリカへ来ている人が多く、その人たちがホストファミリーと一緒に訪問して来るのです。ホストファミリーの模範があるからこそ、一緒に来る日本人の人たちは心を開いて聞いてくれます。一般的には教会員とともに伝道の業

に携わる機会がないように思われますが、そのようなときに会員の方と一緒に伝道しているんだと強く感じます。」

大嶋悦子姉妹も「日本からの観光客も多いので、日本語での案内が必要とされているときにはポケットベルで呼び出されます。けっこう、たくさんの日本人が訪問されますよ」と話してくれた。テンブルスクウェア内で伝道する彼女たちは、普通の宣教師とは違い、どこにいても迅速に訪問者に対応できるように連絡のシステムが出来上がっているらしい。ところで、7人の姉妹宣教師の話聞いてるとき、もう1人の姉妹宣教師である阪本潔美姉妹の姿だけが見えないといっ、ほかの7人の姉妹たちは落ち着かない様子だった。どうしても見つからないので、とうとうポケットベルで呼び出してもらうことになった。「おかしいですね、先ほどから呼び出してはいるんですけど……。」テンブルスクウェアのどこかにはいるのだろうが、混雑して移動できないのだろうか。ややあって写真撮影をしようという間際、阪本姉妹はようやく慌てて合流した。どうやらほかの訪問者の対応に追われていたらしい。迅速なポケ

勢揃いしたソルトレーク・テンプルスクウェアに働く
8人の姉妹宣教師たち。

ットベルでの呼び出しも、最後の総大会のにぎわいの中では、あまり効果がなかったようだ。

大島姉妹は留学の経験があるが、他のほとんどの人は、召される以前にあまり英語を話せなかったという。

「訪問者の方に質問されたことが理解できなくて、何と答えて良いのか分からなかったときにはつらい思いをしました。そんなときには落ち込んだりもしました。知識で攻められると、英語が追いつかないことも度々ありました」と、言葉で苦労した経験を岸田慶子姉妹は回想する。テンプルスクウェアでの伝道は伊藤美絵姉妹にとっても大きなチャレンジとなっているようだ。北海道出身なので、ソルトレークの寒い冬くらいはへっちゃらだが、彼女たちを泣かそうと訪れる様々な人たちに対応するのは大きなチャレンジかもしれない。そうした人たちとも争うことは一切せず、笑顔で接するのは強い忍耐を必要とすることだろう。廣田麻美姉妹は「教会を中傷する人たちの心ない質問に攻め立てられたときには、『英語が分かりません』で、終わらせちゃいます」と明るく答える。リラックスした彼女の姿には、本来宣教師が備えている快活さを強く感じることができる。

新田聡美姉妹は、伝道に出ることについて家族から快い了解を得るのは難しかったと語る。今でこそ輝くような笑顔で訪問者に証を述べる彼女だが、家族が教会員ではない多くの宣教師たちは、伝道に出る前にも幾つものチャレンジを乗り越えなければならなかったことだろう。

英語と日本語の両方で訪問者に案内を行う姉妹宣教師たちにはシフトがあり、朝9時から始まる人と11時から始まる人がいる。9時から始まる人は7時まで、11時から始まる人は9時まで働く。残りの時間は個人の勉強時間などに割り当てられている。毎日を忙しく奉仕する彼女たちは、自分の悩みや煩い事を表面に出すことはない。多忙な生活を送る新田姉妹は日本の家族に数日前に電話をした。「帰って来るのを楽しみにしていました」とほほえんで語る彼女が、愛する家族のもとへ戻る日は近い。伝道期間を満了しソルトレークを離れるまでは、

時間を惜しむようにして主の業に献身している。

テンプルスクウェアで働く姉妹宣教師は、4か月間だけほかの伝道部で伝道する機会が与えられる。すでに何人かは冬の時期にほかの伝道部で戸別訪問をし、ちらしを配り、多くの人がバプテスマを目にする機会にも恵まれている。新田姉妹はオレゴン州のポートランド伝道部で、小川姉妹はワシントン州のスポーカンで働く経験をした。テンプルスクウェアが人でにぎわう夏を除いて、姉妹宣教師たちは、全米のどこかの伝道部に赴任することになる。季節柄、厳しい寒さの中で伝道する場合が多い。鹿児島県出身の小川姉妹にとっては、厳寒のスポーカンでの伝道はつらいものだったかもしれないが、そのつらさを忘れさせる喜びにも恵まれた。それは故郷にいる家族の改宗であった。

主に従い、主の業に身をささげる宣教師たちには多くの祝福も約束されてい

る。それぞれの宣教師が伝道に出るまでに、多くのドラマがあり、多くの犠牲があるに違いない。そのような中でも、主が求められることを優先させ、自分の時間と才能を主にささげている宣教師たちは、テンプルスクウェアで働く8人の姉妹宣教師のほか、世界中に4万人以上いる。伝道に出る選択をした多くの人々には感謝と尊敬の念を感じずにいられない。

現在、日本から海外に召される宣教師は年を追うごとに増加している。異文化を体験し、様々な人々へ理解を示し、様々な信仰の在り方を感じた日本人宣教師たちは、いずれ日本へ帰ることになる。ソルトレークで出会った^{かつて}闊達な姉妹宣教師たちを見ていると、人の言葉ではなくイエス・キリストの言葉を中心に置き、柔軟な考えや寛容な態度、信仰に対する様々な価値観を培った彼らがそれぞれの地に戻って、わたしたち日本人の教会員の視野を広げてくれる日もそう遠くのことではない、と思われた。□

“霊的な音” を求めて

やまとすみえ
山本澄江姉妹／岡山ステーキ松江ワード



「初めて神殿の儀式執行者について聞いたとき、ただ年1回、神殿に参入した際の空いた時間に儀式執行のお手伝いをすればよいのだと思っていました。ところがその後、年に6回参入しなければならないと聞いて『ああ、とんでもない』と思いました。」島根県松江市在住の山本澄江姉妹は、東京神殿の儀式執行者に召されるまでのことを振り返ってこう話しています。当時、山本姉妹は大学で音楽関係の技官として働いていました。「わたしは大学で演奏する立場なので、普段から練習で時間を取られ、ことに定期演奏会のある秋ともなると非常に忙しかったのです。」

「あるとき、岡山ステーキの山陰地方に当時の菊地神殿長をお迎えすることになりました。わたしは案内役だったので、菊地ご夫妻と親しくお話する機会がありました。そのとき、神殿長は『山本姉妹は儀式執行者の面接を受けますか?』と尋ねられました。わたしは『いえ、とんでもない、年に6回なんて……』と申し上げると、神殿長は『毎月』とおっしゃいました。『いえ、わたしは秋が忙しくて……』と話すともた『毎月』。そこでまた事情を説明したら再び『毎月』。そう3回言われました。そのときふうっと、ああわたしは毎月神殿に行くことになっているんだ、と感じたんです。」そうして1995年9月、山本姉妹は儀式執行者に召され、松江から毎月神殿に通う生活が始まりました。「遠くに住んでいても近くでも犠牲は同じです。近くの方は時間などもより多く求められるでしょう。その人に今できることを求められると思います。だから、今、そのための時間や機会やお金が与えられているんです。」

ところがその後、山本姉妹は手を痛めて一時楽器を演奏できない状態にまでなりました。医師には、医学的にも原因が分からないと言われました。

「神殿長も心配して癒しの祝福をして

くださいました。そして、祈りによって一人の先生に会わせて下さいました。先生は、わたしには握力が通常の人の半分しかない、と言われました。かなりの期間、継続して治療しなければならないだろうとのことでした。時間はかかりましたが、反面、わたしが弾けないことで他の人に成長と祝福の機会をもたらすことにもなったのです。そして、そうした状態にあっても、不思議に神殿の中でだけはオルガンが弾けたのです。松江に戻ると痛くて弾けません。神殿と、大学の本番の演奏の、必要なときだけは不思議と弾くことができました。」こうして徐々に病は快方に向かいました。

そんなある日、東京神殿の礼拝堂で山本姉妹は妙なるオルガンの音色を耳にしました。「そのオルガンの音が普段耳にするのと全然違っていて、御霊を感じる音だったんです。わたしはそれまでそんな音を自分が出したことがなかったのでびっくりしました。見るとブラウン姉妹（地域会長第一副会長夫人）が演奏されているのでした。こんな霊的な音を出せるのだったら、みんなが御霊を感じられるのではないか、と思って、それからずっとそのことを考えるようになったんです。どうやったら自分もそんな音を出せるんだろうって。その後、神殿でオルガン演奏の責任を頂いたとき、あのとき感じた“霊的な音”を出そうと一生懸命弾いたんです。そうしたらいつの間にか礼拝堂はエンタウメントの儀式を受ける人で満員になっていて、でもその人たちの入って来る足音さえも聞こえなかったんです。わたしが求めていた“霊的な音”、それをその場の方々が感じてくださっている、とそのとき分かりました。」“霊的な音”を出すとは、演奏する自分がその場の霊的な雰囲気を感じ取って、聴いている人にそれが感じられるよう、自分の出す音に細心の注意を払って集中し、心を込めて弾くこと、と山本姉妹は説明してくれます。

松江に戻った山本姉妹は、教会でオルガニストの割り当てを受けたとき、神殿で学んだ“霊的な音”に思いを集中させながら弾きました。「そのとき、子どもたちがものすごく大きな声で歌ったんで

す。つまり子どもがいちばん先にこの音を感じたんですよ。そしてそれを表現したんだと思うんです。これがほんとうの『喜び勇んで主を賛美する』ということなんだ、と感じました。主を賛美することの大切さを、そのとき子どもたちから学んだんです。」集会の後、礼拝堂の後方に座っていた友達は、子どもたちが踊り出すんじゃないかとまで思ったそうです。

山本姉妹は仕事においても、ステーキ音楽委員長の召しにおいても「学びの家」すなわち神殿で豊かに知恵を祝福されています。「今ステーキの音楽指導者を訓練しているんです。そのために指揮法も変えています。オルガニストが集中して霊的な音を出し、指揮者がみんなをこちらに注目させる、それはみんなが天父の方を向くことにつながると思うんです。音で準備してみんなが一つになり、そして心を込めて主を賛美する、そうできたらと思います。」

神殿に行くのは実家に帰るようなもの、と山本姉妹は言います。「教会も同じです。以前、お休みされていた方を十数年ぶりに教会へお誘いしたとき、それまでしきりに『敷居が高い』とおっしゃっていたのが、来られてみると『実家に帰るより、楽だったよ』と言われたのが印象的でした。会員でも求道者でも、帰って来てほっとする教会を、音楽を通じて感じていただけたらいいですね。」そうした責任のうえでの質問も神殿に持って行って教えてもらうのだそうです。山本姉妹は神殿の祝福について強調します。「神殿に入っても、3回くらい続けてセッションに入らなければこの世の人間から離れられません。1回、2回ではなかなかね……一度、2回続けて入って、疲れたから出るという友人を無理矢理引っ張って3回目に入ったことがあるんです。彼女は『もう!』って怒りながら入って行きましたけれど、終わったときに『感謝する……よかった、疲れて眠くなるどころか頭がさえてきて、こんな経験をしたのは初めて』って言ってくれたんです。神殿から出てカプセルの中にいるようで世の雑踏をあまり感じません。家に帰っても、天から地球に帰ったみたいで時差ボケを感じますね」と笑いました。□



総合施設部施設課

教 会堂で使用している標準型のカーペットは、裏にラバーが張り付けてあり、水を使ったクリーニングが可能です。特に染みは放っておくと徐々に黒ずみ、不潔になります。新しいものであれ古いものであれ、気がついたらすぐに取り除きましょう。以下の方法はだれでもできます。用具室に染み抜きセットを準備しておきましょう。

染み抜きに使用するもの

- スプレーヤー：水を入れます。洗剤は一切使用しないでください。変色のものになります。
- 柄の付いた運動靴洗い用のブラシまたは歯ブラシ
- 乾いたきれいなぞうきん
- ゴムハンマー：木や鉄のハンマーは下地を傷めます。使用しないでください。
- ベンジン：水で落とせない油性の染みに使用します。油性の染みとは、植物油、マヨネーズ、チョコレート、ミルクなどです。ガムもベンジンで取れます。

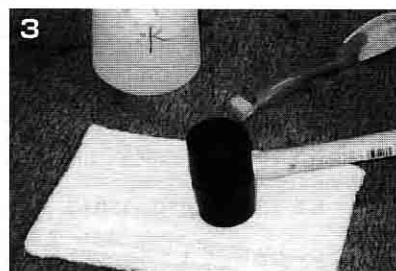
染み抜きの方法



- 染みの部分に水をスプレーヤーで少量吹きつけます(写真1)。
- ブラシで汚れをこすり出します。汚れが取れないようであれば、油性の染みと考えられます。その場合はベンジンを使ってみましょう(写真2)。

第1章： カーペットの 染み抜き

●乾いたきれいなぞうきんを上置き、ゴムハンマーでたたか足で踏んで染みを吸い取ります(写真3)。



- 同じ行程を2,3度繰り返します。
 - 最後にぞうきんなどでカーペットの表面をこすり、水分をふき取ります。□
- ビデオ「レッツ・クリーニング!」も参照してください。

2000年度「クモラの丘霊園」 分譲のお知らせ

「クモラの丘霊園」分譲の来年度募集を2000年12月31日まで行います。永代使用料は毎年値上がりします。分譲ご希望の方は、早目にお申し込みください。

1. 墓地永代使用料 一区画 328,000円
支払方法 一括または分割払い。分割払いの場合は、初回金9,400円、以降毎月5,400円59回払いの無利子分割払いとなります。
2. 墓地管理料 年間 4,200円(初回金とともに1年分を前納し、以降毎年10月末日までに支払うものとします。)
3. お申込方法 以下の書類をクモラの丘霊園事務局に提出し、初回金と管理料をお支払いください。
①クモラの丘霊園申込書
②住民票
③クモラの丘霊園永代使用契約書 2通
④銀行自動振替手続き書類
4. 今年度申し込み期限 2000年1月1日から2000年12月31日まで
5. 墓所の指定 申込書類受領確認の後、順番に行います。
6. お問い合わせ 〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30
末日聖徒イエス・キリスト教会管理本部内
クモラの丘霊園事務局
電話 03 (3440) 2351 (代)

住所変更届出のお願い

住所変更の届け出がないため、連絡が取れない方が増えています。手続きに必要ですので、住所を変更された方は住民票の写し(本籍変更の場合は戸籍謄本)、霊園使用承認証を速やかに当方へお送り下さい。また郵便番号、電話番号、新所属ユニット名などの変更もお知らせください。



所在地：埼玉県入間郡毛呂山町 長瀬1313 武蔵野霊園内
(池袋駅から東武東上線・越生線で約1時間、武州長瀬駅下車、徒歩7分)

1999年度チャーチ・ニュース索引

1月号

七十人定員会内の移動	114頁
国際機関誌のタイトル、『聖徒の道』から『リアホナ』に	114頁
専任宣教師—JMTC 230期生 10人, 海外2人	116頁
ユニットの変更	116頁
役員の異動 (1998年11月6日~12月1日)	116頁

2月号

ヒンクレー大管長、テキサスとソルトレーク・シティーで語る	1頁
神殿に関する最新の情報	2頁
外壁の完成が間近の新しい集会施設 (グレッグ・ヒル)	4頁
ポーター長老、『モルモン書』を研究するよう	
ヤングアダルトに勧告する (サラ・ジェーン・ウィーバー)	4頁
神権のビジョン—研究と話し合いにより	
福音への理解を深める (大管長会, 十二使徒定員会)	6頁
神権のビジョン—アロン神権定員会を強める	
(管理監督会, 中央若い男性会長定員会)	6頁
「神の子です」の生みの親、歌詞の誕生について語る	
(サラ・ジェーン・ウィーバー)	7頁
「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 1999年2月	8頁
教会奉仕宣教師プログラム始まる	9頁
「家族の日」に各地で反響	9頁
家族の日・各地の話題から	10頁
家族の実 (和田佳久)	11頁
「家族は永遠だね」—小さな家族が好きだった言葉 (松岡由利子)	11頁
新ステーキ会長/地方部長の紹介	14頁
専任宣教師—JMTC 231期生 9人, 海外1人	16頁
奉献された教会堂—日本大阪堺ステーキ泉北支部	16頁
役員の異動 (1998年12月2日~1999年1月8日)	16頁

3月号

神殿に関する最新情報 さらなる小規模神殿建設、発表される	1頁
宣教師、ロシアで殺害される	1頁
ハリケーン・ミッチ、中央アメリカを襲う	2頁
「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 1999年3月	3頁
「命じられることに……道が備えられ」	
—主の愛により、聖文が読める目を頂いて (竹村和寛)	4頁
現世の日々は永遠に	
—わたしたちの命は主の御手の中に (岡田清武)	5頁
日本におけるステーキ数が30に到達	8頁
クリスマス話題から	
宣教師がラジオに60分間出演。クリスマスメッセージを伝える	9頁
御霊のクリスマスプレゼント—札幌大通公園のキャロリング	9頁
特集—職業に息づく福音	
画家 アラン・ウェスト兄弟	10頁
医師 中村良昭兄弟	13頁
専任宣教師—JMTC 232期生 5人, 海外1人	16頁
奉献された教会堂—広島光ビルディング	16頁
役員の異動 (1999年1月9日~2月10日)	16頁

4月号

ヒンクレー大管長、ハリケーン・ミッチの被災者と	
大西洋岸中部諸州を訪問	1頁
1998年にヒンクレー大管長が訪れた地	3頁
神殿着に関する大管長会の手紙	3頁
伝道活動および活発化の活動に役立つ家族歴史センター	4頁
第5回教会国際芸術コンテスト出展作品募集	4頁
ロシアの聖徒、韓国ソウル神殿を訪問	4頁
補助組織の会員の心得—扶助協会を通して家族を強める	
(中央扶助協会会長会)	5頁
補助組織の会員の心得—調和の取れた若い女性の	
プログラムは家族を強める (中央若い女性会長会)	6頁
補助組織の会員の心得—家族を強める (中央初等協会会長会)	7頁
補助組織の会員の心得—今後の50年間 (中央日曜学校会長会)	7頁
「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 1999年4月	8頁
「最初の示現」の地に100番目の神殿を建設	9頁
日本基督教団の神学生ら8人の方が教会を訪問	9頁
特集—羊を養う	
専任宣教師 リー・W・ファンスワース長老	10頁
羊を守る羊飼いの愛	
—イエス様の助けによって会員を養う (田中 渉)	13頁
「心をついにし、思いをついにし」	
—支部の人々の愛ある言葉に導かれて (新田 修)	14頁

専任宣教師—JMTC 233期生 8人, 海外2人	16頁
奉献された教会堂—我孫子ステーキ足立ワード	16頁
役員の異動 (1999年2月11日~3月10日)	16頁
ユニットの変更	16頁

5月号

ヒンクレー大管長、アラスカ神殿を奉献する	
(ジュリー・A・ドックスターダー)	1頁
ハリケーン・ミッチの被災者、クリスマスの贈り物を送られる	2頁
日本の地域幹部	3頁
教会員から教会本部へ宛てられる通信・文書	3頁
「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 1999年5月	3頁
「いざ救いの日を楽しまん……」	
—喜びに包まれた日本福岡神殿の献入れ式	5頁
神殿献入れ式・奉献の祈り (L・ライオネル・ケンドリック)	7頁
特集—教会に導かれ	
93歳のバプテスマ—義父の思いを変えた信仰の力 (南本邦雄)	9頁
祈りは必ずこたえられます (南本民子)	10頁
主の愛により導かれたわたしの改宗	
—宣教師との23年ぶりの再会から (山田 昭)	10頁
主のもとに招かれた姉妹	
—浦河支部で初めての新会員との出会いと別れ (小林博子)	11頁
専任宣教師 ロー長老の証	12頁
夕暮れの神殿から—神様の愛によって	
備えられたバプテスマへの道 (落合園実)	13頁
専任宣教師—JMTC 234期生 5人, 海外4人	16頁
ブックセンターだより—	
『リアホナ』専用ファイル/主の導き1(ビデオカセット)/	
イエスと使徒たちの生涯と教え/時満ちる時代の教会歴史	16頁
役員の異動 (1999年3月11日~4月8日)	16頁
ユニットの変更	16頁

6月号

大管長会、新しい集会施設を視察	1頁
コロンビアの地震で、多数の末日聖徒に被害	2頁
インターネット上での総大会説教	3頁
宣教師の葬儀	3頁
教会のステーキ総数2,500となる	3頁
一国の門戸を開くきっかけを作った一言	
—50年前一人のウエーターの改宗によってホンジュラスでの	
教会の第一歩が始まった。(ジョン・L・ハート)	4頁
「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 1999年6月	5頁
「われらはみ旗を高く掲げ」—青少年の活動レポート	
「福音の標準週間」……横浜発	6頁
ボーイスカウト活動の成果を学校へ報告……仙台発	7頁
マッケイ・クリステンセン兄弟、アメリカ大リーグに復帰	7頁
特集—「弱さを強さに変え」ハンディキャップとともに福音に生きる	
自分も友達もともに変わり成長する機会を—筋ジストロフィーの	
青少年が普通高校に進学 (松田和徳兄弟)	8頁
わたしにとってアメリカへ行くのは宇宙へ行くのと同じでした	
—重度筋ジストロフィーの姉妹が念願のソルトレーク神殿を訪問	
(嘉陽由美子姉妹)	10頁
わたしは「盲人」に召されています	
—主の業に献身する全員の専任宣教師 (武蔵野 博長老)	13頁
専任宣教師—JMTC 235期生 24人, 海外3人	16頁
役員の異動 (1999年4月9日~5月12日)	16頁
ユニットの変更	16頁

7月号

再奉献されるノーブー神殿	128頁
七十人—アデマール・ダミアニ長老	128頁
七十人—スティブン・B・オーブソン長老	129頁
七十人—デビッド・R・ストーン長老	129頁
七十人—H・ブルース・ストウーキ長老	130頁
七十人—リチャード・H・ウィンケル長老	130頁
七十人—ロバート・S・ウッド長老	131頁
専任宣教師—JMTC 236期生 8人, 海外7人	132頁
役員の異動 (1999年5月13日~6月8日)	132頁
ユニットの変更	132頁
お詫びと訂正	132頁

8月号

教会、コンボに援助を送る	1頁
北米出身の宣教師、ブラジルで訓練を受ける	1頁
系図ウェブサイトのテスト実施中	2頁
神権者の心得—改宗と定着における神権定員会の役割	

(大管長会、十二使徒定員会)	2頁
神権者の心得——「適切な年齢で若い男性を聖任する」	3頁
(管理監督会、中央若い男性会長会)	3頁
「分かち合いの時間のためのアイデア」追加 1999年8月	5頁
ブリガム・ヤング大学日本奨学金基金が発足——日本人学生を支援するため、末日聖徒のビジネス界や芸能関係者が設立	6頁
十二使徒を迎え、大阪地区大会を開催	6頁
新伝道部長紹介——韓国・釜山伝道部/日本・仙台伝道部/日本・札幌伝道部/日本・東京南伝道部/日本・広島伝道部/ロシア・ウラジオストック伝道部	6頁
ロシア・ウラジオストック伝道部を正式に開設	8頁
極東ロシアを照らす福音の光	9頁
——ロシア・ウラジオストック地方部の教会員たち	9頁
子どもを伝道に送る	11頁
愛する日本の聖徒たちへ——親子2代にわたり日本で伝道した帰還宣教師からのメッセージ(ネイサン・M・ピアス、ジュリー・B・ピアス)	11頁
地道な積み重ねが築く、堅固な家庭	12頁
——大阪堺ステーク和歌山ワード、小阪ご家族(東 和明)	12頁
召された者の親として——3人の子どもたちが専任宣教師として	14頁
同時期に奉仕(坂本泰造)	16頁
専任宣教師——JMTC 237期生 6人、海外2人	16頁
国際機関誌「リアホナ」の定期購読更新	16頁
役員の異動(1999年6月9日～7月9日)	16頁
お詫びと訂正	16頁
9月号	
ヒンクレ大管長、チリの聖徒たちに語る	1頁
急速に進められる教会堂建設	2頁
女性の大会——家庭の本質(ジェリー・ドックスターダー)	2頁
子供たちが教会に活発であり続けるために	3頁
「分かち合いの時間のためのアイデア」追加 1999年9月	4頁
セント・デリカット兄弟を招き、小松市でスピーチコンテストを開催	5頁
——全国規模・恒例化への皮切りとして、全国に先駆けて行われる	5頁
心をつなげて……小松発	6頁
メディアを通して教会を知らせる——金沢地方部小松支部の足跡	8頁
ブラウン長老、小松で家族の大切さ呼びかける	8頁
名古屋大学祭でモルモンバビリオン——冬季オリンピックをきっかけに、2日間で400人にソルトレーク・シティと教会を紹介(藤田早苗)	9頁
日々の恵み——	
「もうあなたたちとはつきあえない」大石奈央姉妹	10頁
「どこかで聞いたことのある声だわ」柳田聡子姉妹	11頁
来世での働きに召された兄弟	12頁
——福岡ステーク久留米ワード、故・三牧敏行兄弟	13頁
神様は一人一人の必要をすべて御存じです(三牧桂子)	14頁
「リアホナ」の生まれる場所	15頁
ワードで14冊を年間予約して活用(福山朝光)	15頁
「リアホナ」をプレゼントする喜び(神澤万紀子)	15頁
専任宣教師——JMTC 238期生 8人、海外1人	16頁
日本福岡神教オープンハウスに招待したい方をご推薦ください。	16頁
役員の異動(1999年7月10日～8月10日)	16頁
お詫びと訂正	16頁
10月号	
家族歴史のホームページを新設	1頁
扶助協会、前エジプト大統領夫人の功績をたたえる	2頁
ヒンクレ大管長、世界実務評議会で演説	3頁
ブルガリアで初のユースカンファレンス	3頁
補助組織の会員の心得	4頁
——改宗と定着化に働きかける力(中央扶助協会会長会)	4頁
補助組織の会員の心得	4頁
——ミューチャル——伝道的手段(中央若い女性会長会)	4頁
補助組織の会員の心得——初等協会の働きにより	5頁
子供たちの改宗と定着を助ける(中央初等協会会長会)	6頁
補助組織の会員の心得——人の値(中央日曜学校会長会)	6頁
2000年に開催される若い女性の祭典	7頁
「分かち合いの時間のためのアイデア」追加 1999年10月	7頁
ブリガム・ヤング大学ハワイ校の広報活動に参加する崔崙煥兄弟	8頁
「宗教情報リサーチセンター」に末日聖徒の情報を提供	8頁
——開かれた教会を目指して——公的機関による教会情報の開示	8頁
中央若い男性会長のデレンバック長老が来日	9頁
人生の「キャンプ」で熊を避ける(ショーン・D・スタール)	9頁
継続する奉仕の幸——	
知的障害児施設を青少年たちが定期的に訪問し奉仕	11頁
——東京東ステーク長生ワード	11頁

市の母子援助施設でクリスマス会——15年にわたって訪問	12頁
——熊本ステーキ大分ワード	12頁
小児病院を巡るサンタクロース——23年にわたって奉仕	12頁
——東京ステーキひばりヶ丘ワード	13頁
一歩踏み出して持てる能力を地域社会に生かす	13頁
——牛久市民福祉の会・西原志兄弟	13頁
日々の恵み——	
85歳の卒業生——上村 文姉妹	14頁
絵手紙につづる心の証——高田勢津子姉妹	15頁
専任宣教師——JMTC 239期生 11人、海外4人	16頁
ブリガム・ヤング大学日本事務局主催「全国高校生英語弁論大会」のご案内	16頁
役員の異動(1999年8月11日～9月10日)	16頁
お詫びと訂正	16頁
11月号	
大管長会、伝道部長たちを訓練する	1頁
奉仕の精神——	
2,000人の会員、キャンパスをまばゆいばかりに磨き上げる	2頁
「息をのむ光景」をさらに美しく	3頁
教会、シベリアの村の住民を援助する	3頁
イプスウィッチの扶助協会、奉仕活動に力を入れる	4頁
「分かち合いの時間のためのアイデア」追加 1999年11月	4頁
インターネットサイト「LDS World」日本語版が始動	5頁
地域に開かれゆく教会活動——全国で展開される広報活動の歩み	6頁
昼も夜もその聖所で神に仕え——長嶺顕正神殿長	9頁
1,000人のバプテスマ——北原由梨姉妹	10頁
神殿に十分に浸かる——大石知香男兄弟	11頁
神殿が建つ日に備え——長谷部耕一郎兄弟	12頁
幼子のように主に仕え——西嶋吉春兄弟	14頁
専任宣教師——JMTC 240期生 6人、海外2人	16頁
日本BYU奨学金基金が郵便振替口座を開設	16頁
——奉獻された教会堂——広島伝道部山口地方部山口支部	16頁
役員の異動(1999年9月11日～10月12日)	16頁
お詫びと訂正	16頁
12月号	
ヒンクレ大管長、エクアドル、グアヤキル神殿を奉獻する	1頁
エクアドルの歴史的な日	2頁
ヒンクレ大管長、ベネズエラの教会員に語る	2頁
七十人会長会に召されたバンクス長老	3頁
竜巻、ソルトレーク・シティを襲う(サラ・ジェーン・ウィーバー)	3頁
教会、毎年世界の指導者400人を招待(サラ・ジェーン・ウィーバー)	4頁
合衆国上院議員、アジアならびに環太平洋地域の各国大使を歓待	5頁
教会音楽ワークショップ開催(R・スコット・ロイド)	5頁
「分かち合いの時間のためのアイデア」追加 1999年12月	7頁
日本福岡神教にモロナイ像を設置	8頁
レポート：訪問者センターで働く日本人宣教師たち●バルマイラ発	9頁
“小さな世界”に働く8人の日本人宣教師たち	9頁
●ソルトレーク・シティ発	10頁
日々の恵み——	
“霊的な音”を求めて——山本澄江姉妹	12頁
教会美化ワンポイントアドバイス・第1章：カーベットの染み抜き	13頁
2000年度「クモラの丘霊園」分譲のお知らせ	13頁
専任宣教師——JMTC 241期生 8人、海外4人	14頁
「LDS World」メールニュース配信申し込み要項	14頁
役員の異動(1999年10月13日～11月10日)	14頁



専任宣教師

1999年10月(241期生)8人 海外4人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



い な ま す た
稲増 太
札幌伝道部
岡山ステーキ
岡山西ワード



え な み り え こ
江南里依子
神戸伝道部
我孫子ステーキ
定立ワード



つ ち や た け し
植谷 健志
東京南伝道部
我孫子ステーキ
つくばワード



の だ ひ ろ し
野田 寛志
札幌伝道部
大阪北ステーキ
岡町ワード



あ り かわ ま さ ひと
古川 愛留昌
広島伝道部
横浜ステーキ
横浜中ワード



あ り かわ よ こ
古川 洋子
東京南伝道部
鹿児島地方部
川内支部



ほ し かわ み ち お
保阪 美智雄
福岡伝道部
東京西ステーキ
福生ワード



む ら か み き
村岡 美紀
札幌伝道部
プライスカレッジステーキ
第1ワード



う え む ら た ろ
上村 裕太
札幌伝道部
ユタプロパティエース
ステーキ
プレゼントビュー第6ワード



お の あ や こ
小野 綾子
ソルトレーク・シティ
テンブルスクウェア伝道部
札幌西ステーキ
手稲第1ワード



こ す け ま さ し
小菅 昌史・クリスチャー
札幌伝道部
ユタスノーキャニオンステーキ
スノーキャニオン第6ワード



み ぞ ぐ ち れ い こ
溝口 玲子
ソルトレーク・シティ
テンブルスクウェア伝道部
長崎地方部
佐賀支部

役員の異動

1999年10月13日から1999年11月10日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の異動(敬称略)

●日本宇都宮地方部

地方部長: Halvorson, Darwin William

第一副部長: 高山 佳巳

第二副部長: 高坂 洋一

●札幌ステーキ豊平ワード

監督: 志賀 浩幸

皆さんの原稿を募集しています

◎地域のニュース、あなたの証などをご紹介ください。

◎ご投稿の際には連絡先、教会での責任、所属ユニット名を記入し、できれば写真を同封のうえお送りください。

◎記事に掲載された方の連絡先のお問い合わせが時折寄せられますが、プライバシー保護のため個人情報はお伝えできません。お便りは編集室までお寄せください。ご希望によって掲載された会員の方へ転送いたします。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師を紹介いたします。伝道の召しを受け取り次第、編集室に写真を添えてお知らせください。(氏名[フリガナ]、所属ステーキ/地方部、ワード/支部MTC入所月、伝道部名を明記)

◎あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会『リアホナ』編集室
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275

『LDS World』メールニュース配信申し込み要項

『リアホナ』1999年11月号チャーチ・ニュースで紹介された教会関連のホームページ『LDS World』日本語版メールニュースの無料配信リストに加入したい方は、以下の要領で申し込むことができます。

1. 本文中に「subscribe ldsworld-gems-jp Taro Morumon」(すべて半角英数で、Taro Morumonの部分にはあなたの名前を入力)とだけ書いた電子メールを、
2. 宛先「listserv@lists.ldsworld.com」に送る。
3. LDSWORLD-GEMS-JPのリストに加入したという確認のメール(英文)が来る。
(You are now subscribed to the LDSWORLD-GEMS-JP list)
4. 以降は定期的・自動的に日本語版メールニュースが配信される。

LDS World-Gemsは末日聖徒イエス・キリスト教会に関連するメール配信リストとしては最大の6万人を超える愛読者を抱えています。「Gems」は配信専門のメーリングリストで、討論の場ではありません。一日に2~4件の配信を通して、教会の最新の出来事や教会歴史、教会幹部の教え、その他霊的なお話を発信しています。このメーリングリストに関するホームページは以下のURLで見ることができます。

<http://www.ldsworld.com/jp/gems/>

2000年1月号から『リアホナ』の表紙デザインが変わります。また、全世界37言語で発行される末日聖徒イエス・キリスト教会国際機関誌の名称は2000年1月号をもってすべて『リアホナ』に統一されることになりました。来るべき2000年代も『リアホナ』をよろしくご愛読ください。